

Sasaki



取扱説明書

Offset Mower

オフセットモア

オフセットモア

KZL147G

KZL147Y

KZL147GS

KZL147YS

KZL167G

KZL167Y



本製品を安全に、また正しくお使いいただくために、必ず本取扱説明書をお読みください。誤った使い方をすると、事故を引き起こすおそれがあります。

ご使用前に必ずお読みください。

お読みになった後も必ず製品の近くに保管してください。

安全作業で家族も笑顔

目次

はじめに	1
安全に作業するために	2
安全銘盤の貼り付け位置	8
保証とサービスについて	9
1. 保証書について	9
2. アフターサービスについて	9
3. 補修用部品の供給年限について	9
各部の名称	10
装着前の準備	11
シリンダストップの取扱	13
スタンドの装着	14
灯火器の取扱	16
トラクタへの着脱方法	17
1. 装着方法	17
2. 取り外し方	20
ユニバーサルジョイントの切断方法	22
刈高さの調整方法	23
作業前の点検	24
運転および草刈作業について	25
1. 移動と圃場への出入りのしかた	25
2. 作業のしかた	26
作業上の注意	28
保守管理について	29
1. Vベルトの張り調整	29
2. ナイフの交換時期	29
3. ナイフの組み付けについて	30
4. 作業シーズン中	31
5. 作業シーズン終了後	31
6. オイル交換およびグリース注油について	31
7. 廃油処理について	33
トラブルの原因と処置方法	34
主要諸元	35
トラクタマッチングリスト	36
1. KZL147G / Y / GS / YS 各社トラクタとのマッチング	36
2. KZL167G / Y 各社トラクタとのマッチング	37

ササキ商品をお買い上げいただき

誠にありがとうございます。

はじめに

- ◎ この取扱説明書は、オフセットモアの取扱方法と、使用上の注意事項について記載しております。ご使用前には、必ずこの取扱説明書を熟読するまでお読みのうえ、正しくお取り扱いいただき、常に最良の状態でお使いください。
- ◎ このオフセットモアは、雑草を刈り取る機械です。その他の目的で使用しないでください。
- ◎ お読みになった後は、必ず製品の近くで保管してください。
- ◎ 本製品を貸与または譲渡された場合は、この取扱説明書を商品に添付してお渡しください。
- ◎ この取扱説明書を紛失または損傷された場合は、速やかに当社あるいは当社の特約店・販売店にご注文ください。
- ◎ なお、品質・性能向上あるいは安全上、使用部品の変更を行うことがあります。その際には、本書の内容及び写真・イラストなどの一部が、本商品と一致しない場合がありますので、ご了承ください。
- ◎ ご不明なことやお気付きの点がございましたら、お買い上げいただきましたお店、または、お近くの特約店・販売店・J Aにご相談ください。
- ◎  付きの下記のマークは、安全上特に重要な項目ですので、必ずお守りください。



危険

この警告文に従わなかった場合、死亡または重傷を負うことになるものを意味します。



警告

この警告文に従わなかった場合、死亡または重傷を負う危険性があるものを意味します。



注意

この警告文に従わなかった場合、ケガを負うおそれのあるものを意味します。

重要

注意事項を守らないと、機械の損傷や故障のおそれのあるものをあらわします。

補足

その他、使用上役にたつ補足説明をあらわします。

- ◎ この取扱説明書には安全に作業していただくために、安全上のポイント「**安全に作業するために**」を記載してあります。ご使用前に必ずお読みください。

安全に作業するために

本機をご使用になる前に、この取扱説明書をよく読み、ご理解いただいたうえで安全な作業をおこなってください。
安全に作業するために、ぜひ守っていただきたい注意事項は下記の通りですが、これ以外にも本文の中で「**▲** 警告サイン」として説明のつど取り上げております。

◎一般的な注意事項

▲ 警告 こんな時は作業しない

- ◇ 過労・病気・薬物の影響、その他の理由により作業に集中できないとき。
- ◇ 酒を飲んだとき。
- ◇ 妊娠しているとき。
- ◇ 18歳未満の人。



▲ 警告 作業に適した服装をする

はちまき・首巻き・腰タオルは禁止です。
ヘルメット・滑り止めのついた靴を着用し、作業に適した防護具などを付け、だぶつきのない服装をしてください。

【守らないと】

機械に巻き込まれたり、滑って転倒したりするおそれがあります。

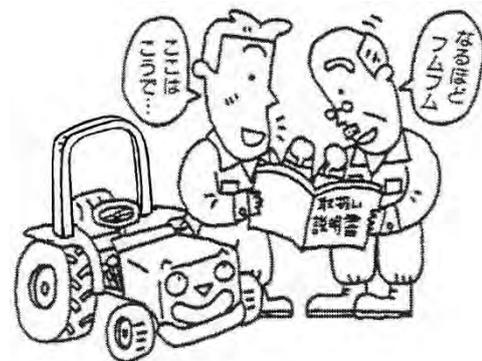


▲ 警告 機械を他人に貸すときは取扱方法を説明する

取扱方法をよく説明し、使用前に「取扱説明書」を必ず読むように指導してください。

【守らないと】

死亡事故や重大な傷害、機械の損傷をまねくおそれがあります。

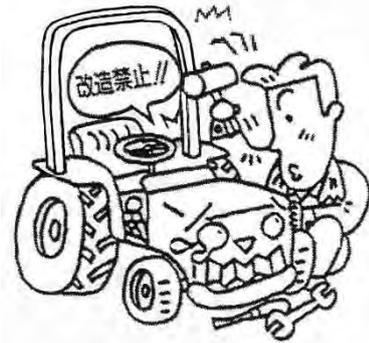


⚠️ 注意 機械の改造禁止

純正部品や指定以外のアタッチメントを取り付けないでください。

【守らないと】

事故・ケガ・機械の故障をまねくおそれがあります。



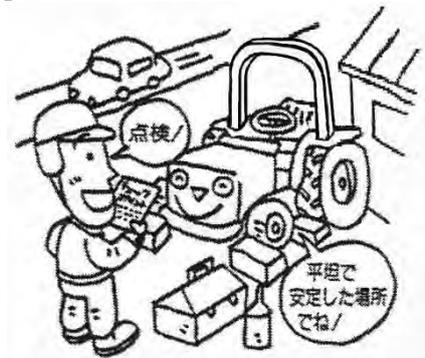
◎ 作業の前に

⚠️ 警告 始業点検整備は平坦で安定した場所で行う

交通の危険がなく、機械が倒れたり動いたりしない平坦な安定した場所で、トラクタの前輪には車止めをして点検整備してください。

【守らないと】

機械が転倒するなど、思わぬ事故をまねくおそれがあります。

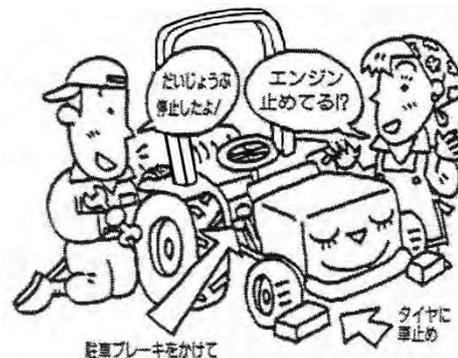


⚠️ 警告 点検整備中はエンジンを停止する

点検・整備・修理または掃除をするときは、必ずエンジンを停止してください。

【守らないと】

機械の下敷きになるなど、傷害事故をおこすおそれがあります。



⚠️ 注意

- ◇ 作業の前には、点検・整備をおこなってください。
- ◇ 各部のボルト・ナットなどのゆるみや、ピンの脱落がないか確認してください。
- ◇ カバー類を外したら、必ず取り付けてください。

◎トラクタへの着脱

⚠ 危険 運転時はジョイントカバーを外さない

運転時はユニバーサルジョイントのカバーを外さないでください

【守らないと】

ユニバーサルジョイントに巻き込まれて、傷害事故を起こすおそれがあります。



⚠ 警告 作業機の着脱は平坦な場所で行なう

作業機の着脱は、平坦で安定した場所でおこなってください。夜間は、適切な照明をしてください。

【守らないと】

事故をおこすおそれがあります。



⚠ 警告 作業機の下にもぐったり、足を入れたりしない

作業機の下にもぐったり、足を踏み込んだりしないでください。

【守らないと】

何らかの原因で作業機が下がったときに、傷害事故をおこすおそれがあります。



⚠ 警告 重い作業機をつけるときはウェイトでバランスを取る

重い作業機を装着したときは、フロントにバランスウェイトをつけてバランスを保ってください。

【守らないと】

バランスを崩して事故を引き起こすおそれがあります。



注意

- ◇ トラクタから離れるときは、エンジンを止め、駐車ブレーキをかけて、PTO変速を中立にしてください。
- ◇ 2人以上で作業をおこなう場合は、互いに合図・確認をしながら作業してください。
- ◇ ユニバーサルジョイントの止めピンが、確実に軸の溝にはまっているか確認してください。
- ◇ 取り付け部のピンが、すべて確実に装着されているか確認してください。

◎ 路上走行

注意 トラクタに作業機を装着した状態での公道走行時は法令を遵守する

- ◇ トラクタに作業機を装着した状態で公道を走行する場合は、下記の法令を遵守する必要があります。

【道路運送車両法】 保安基準として、灯火装置や反射器、制限標識などを 必要に応じて取り付け。

【道路交通法】 免許区分に応じた運転免許証の携帯。

【道路法】 一定の大きさや重量を超える場合は、特殊車両通行許可の申請。

※ 詳細は農林水産省や日本農業機械工業会の HP をご覧頂るか、販売店にお問い合わせください。

【守らないと】 法令違反です。交通事故を引き起こすおそれがあります。

注意

- ◇ トラクタに運転者以外の人を乗せないでください。
- ◇ 作業機には 乗らないでください。
- ◇ 作業機の PTO 回転を止めてから走行してください。
- ◇ トラクタの落下速度調整ハンドルを回して、必ず油圧ロックをしてください。
- ◇ 旋回するときは、作業機に人や物が接触しないように注意してください。
- ◇ 作業機を装着した時、機体寸法が大きくなるので、走行時は十分注意してください。
- ◇ 溝のある農道や、両側が傾斜している農道では、路肩に十分注意して移動してください。

◎ 圃場への出入り

注意

圃場に入るときは、必ず前進で速度を落とし、作業機を低くして重心を下げ、

畦や段差に対して直角に進んでください。

圃場から出るときも同様に、速度を落とし、作業機を低くして重心を下げ、

畦や段差に対して直角に進んでください。

急な坂などでは無理をせず、後退して圃場から出てください。

◎作業をしているとき

⚠ 警告 回転部（ツメ・刃、軸等）に巻き付いた草等を取るときはエンジン停止

回転部（ツメ・刃、軸等）に巻き付いた草等を取るときは、トラクタのエンジンを停止してください。

【守らないと】

機械に巻き込まれて、重傷を負うおそれがあります。



⚠ 警告 子供を近づけない

子供には十分注意し、近づけないようにしてください。

【守らないと】

傷害事故を引き起こすおそれがあります。



⚠ 警告 トラクタと作業機の周辺に人を近づけない

トラクタを移動して作業機を着脱するときは、トラクタの周辺や作業機との間に人が入らないようにしてください。

【守らないと】

傷害事故を引き起こすおそれがあります。



⚠ 警告 作業機指定のPTO回転を守る

低速回転用の作業機を、高速回転で使用しないでください。
作業機指定のPTO回転速度を厳守してください。

【守らないと】

作業機が異常作動し、事故や機械の破損を引き起こします。



⚠ 注意

- ◇ 補助作業者がある場合は、お互いに動作ごとに合図をかわしてください。
- ◇ 回転部分や動くところには触れないでください。

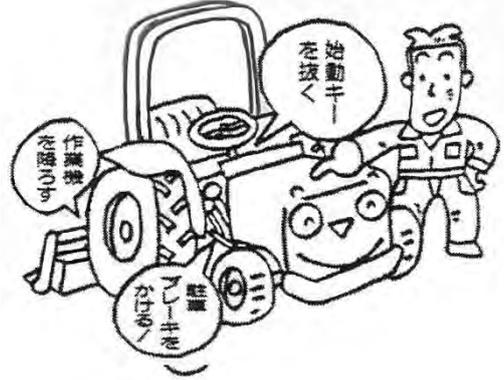
◎トラクタを駐停車するとき

⚠ 警告 機械から離れるときは作業機を地面に降ろしてエンジンをとめる

機械から離れるときには、平坦で安定した場所に置き、昇降レバーで作業機を下げて、エンジンをとめて、始動キーを抜き、必ず駐車ブレーキを掛け、車止めをしてください。

【守らないと】

トラクタが動きだし、事故を起こすおそれがあります。



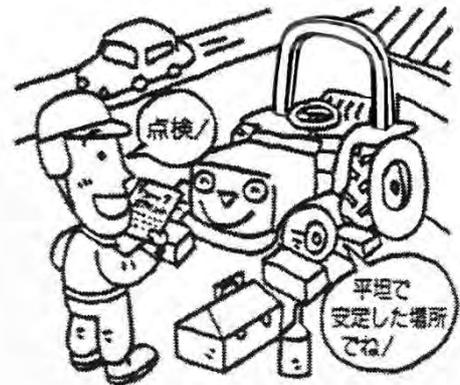
◎点検や格納のとき

⚠ 警告 点検整備は平坦で安定した場所で行なう

機械を点検・整備・格納をするときは、平坦で安定した場所に置き、エンジンを止めて、必ず駐車ブレーキを掛け、車止めをしてください。

【守らないと】

トラクタが動きだし、事故を起こすおそれがあります。



⚠ 注意

- ◇ 点検・整備時は、トラクタのエンジンを止めてください。
- ◇ 機械の下にもぐったり、下で作業したりしないでください。
- ◇ キャスターなどが付いている場合は、車止めをして作業してください。

保証とサービスについて

1.保証書について

『保証書』は、お客様が保証修理を受けられる際、必要となるものです。
お読みになった後は、大切に保管してください。

2.アフターサービスについて

ご使用中の故障やご不審な点など不具合があるときは、
お買い上げいただいた販売店等にご相談ください。

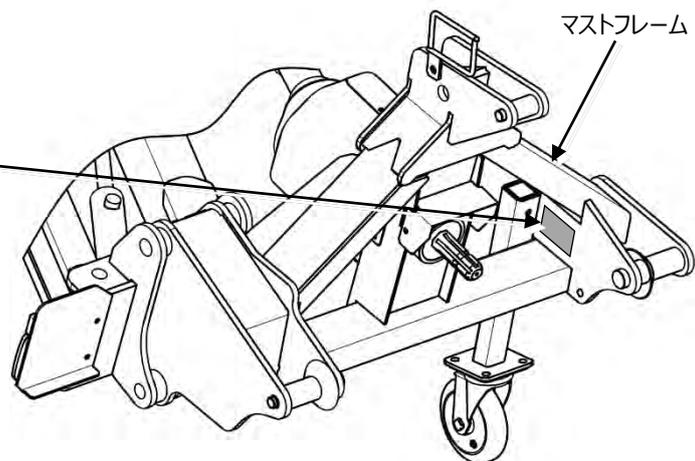
《ご連絡いただきたい内容》

- ◇ 型式名（機体銘板に明記してあります）
- ◇ シリアル番号（機体銘板に明記してあります）
- ◇ ご使用状況は？
（どのような作業をしていたときに？）
- ◇ どのくらい使用しましたか？
（約何アール又は約何時間使用）
- ◇ 不具合が発生したときの状況

以上をできるだけ詳しくおしらせください。

《機体銘板の貼り付け位置》

機体銘板は「マストフレーム」左側のロワプレートに
貼り付けてあります。

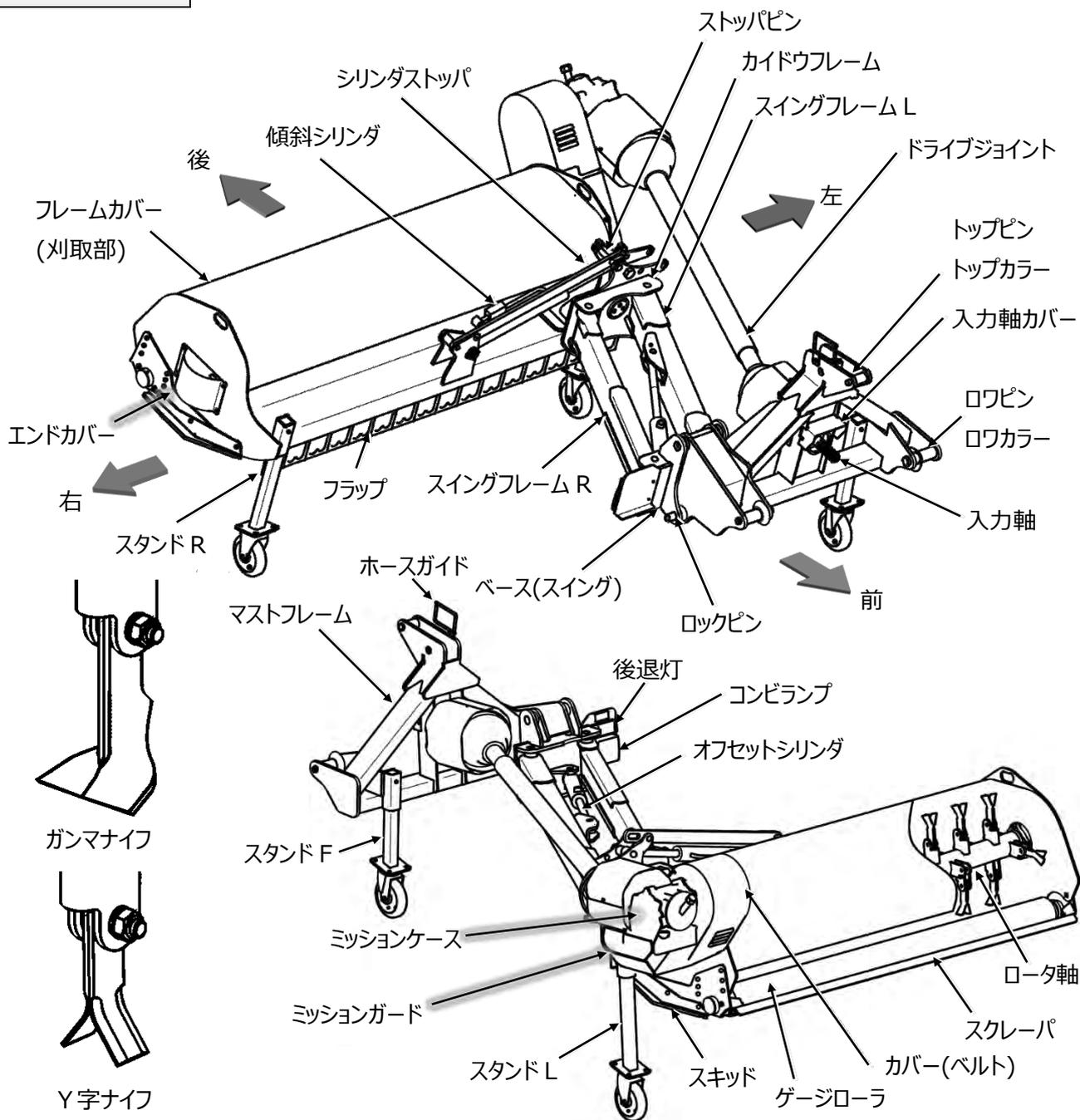


3.補修用部品の供給年限について

この商品の補修用部品の供給年限は、製造打ち切り後 9 年です。

ただし、供給年限内であっても、特殊部品については納期をご相談させていただく場合もあります。

各部の名称



名称	規格	個数	備考
メスカブラ	3/8 ゴムキャップ付き	2	K Z L 1 4 7 G S / Y S のみ
メスカブラ	3/8 ゴムキャップ付き	4	K Z L 1 4 7 G S / Y S 以外
コントローラ	電源ハーネス付	1	K Z L 1 4 7 G S / Y S のみ
保証書		1	
取扱説明書		1	
オートヒッチ		1	3 L、4 Lの場合
ユニバーサルジョイント	# 2 7 0	1	3 Lの場合
ユニバーサルジョイント	# 3 0 0	1	4 Lの場合

装着前の準備

1. 各部のボルト・ナットの緩み、ピン類の脱落がないか、確認してください。ある場合には、増し締め、組み付けをおこなってください。

注意

作業中にボルト・ナット・ピン等が外れると、作業機の破損ばかりか、トラクタの破損や人身事故につながるおそれがあります。

2. 作業機を装着すると機体の長さ・幅が大きくなり、重量バランスが変わります。確認のうえ、適宜フロントウエイト等を取り付けてください。

危険

- 作業機の下にもぐったり、足を入れたりしないでください。
また、作業機とトラクタの間に、入らないでください。
【守らないと】挟まれて死傷するおそれがあります。

警告

- 作業機の着脱は、平坦で十分な広さがあり、地盤がしっかりした場所でおこなってください。
【守らないと】作業機が動いて、死傷事故を起こすおそれがあります。
- 適応トラクタの範囲内で使用してください。
適応範囲以内のトラクタであっても、発進時・登坂時に、トラクタの前輪が浮き上がる場合には、必ずフロントウエイト等を取り付けてください。
【守らないと】転倒や横転等の事故で死傷するおそれがあります。

3. 本機を装着する際は、事前にトラクタの3点リンクに日農工 I - II 兼用 標準オートヒッチ（以下、Lヒッチ）を取り付けてください。ササキ純正ヒッチが推奨です。

危険

- ユニバーサルジョイントを取り付けるときは、必ずエンジンを停止してください。
【守らないと】巻き込まれて死傷事故を起こすおそれがあります。
- 2人以上で作業するときは、お互いに合図をして、確認しあって作業してください。
特に、トラクタのエンジンをかけるときや、エンジンが作動している間は、十分に注意してください。
【守らないと】機械が不意に動き出し、思わぬ事故につながるおそれがあります。

注意

- 装着時は、トラクタのPTO変速を中立にしてください。
【守らないと】機械が不意に動き出し、思わぬ事故につながるおそれがあります。

4. KZL147GS/YS の場合、コントローラを接続してください。(147G/Y、167G/Y は不要)

KZL146GS/YS は、1 系統の油圧取り出しをセレクトバルブで切替えて、オフセットと傾斜、それぞれのシリンダを選択し動作させるための、コントローラと電源ハーネスが付属しています。

以下の要領でトラクタと接続してください。

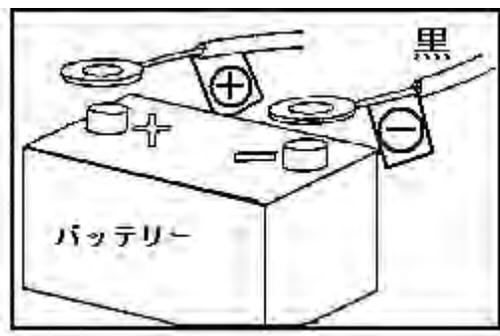
接続方法

- 4-1. 電源ハーネスをトラクタのバッテリーへ接続してください。

バッテリーのコードを外します。

次に、⊕と表示されているコードをバッテリーの⊕側へ接続し、最後に、⊖と表示されているコードをバッテリーの⊖側へトラクタのコードと一緒に接続してください。

バッテリーは大抵の場合、トラクタの前方にあります。トラクタに外部コネクタがある場合は、外部コネクタを使用してもよいです。



- 4-2. コントローラを運転席付近へ据え置き、電源コードと接続します。電源コードは、前輪に引っかからないようにバンドでクランプしてください。

- 4-3. トラクタキャビン内より本機側へコードを引き出す場合は、キャビン後方のゴムグロメットにカッターナイフで切り込みを入れ、コードは必ずゴムグロメットを介し通してください。

警告

ゴムグロメットを外してコードを通すと、コードに傷がつき、思わぬ事故を起こすおそれがあります。

重要

- 本製品の作動電源はバッテリー DC 12V です。

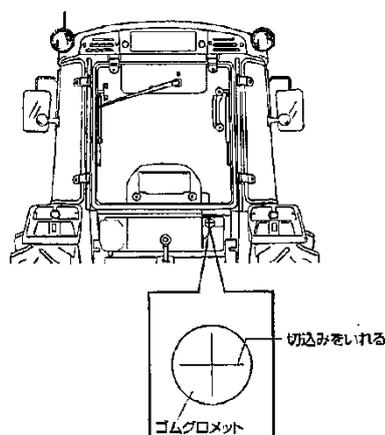
その他の電源に接続すると破損しますので、絶対に接続しないでください。

- バッテリーの ⊕ と ⊖ を必ず確認してから接続してください。

誤って接続すると電子部品の故障の原因になりますので注意してください。

- バッテリー電圧が不足していると作動しない場合があります。

電圧が不足している場合は充電してください。



シリンダストップの取扱

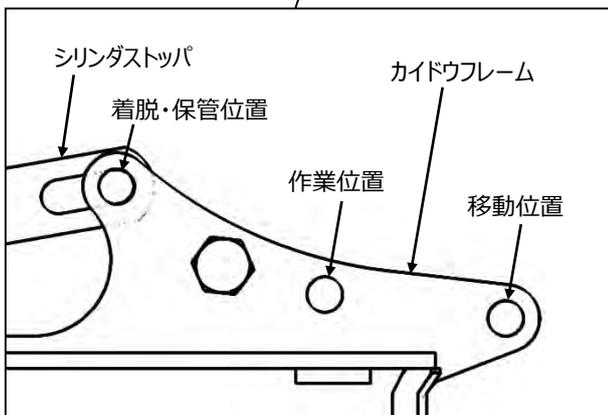
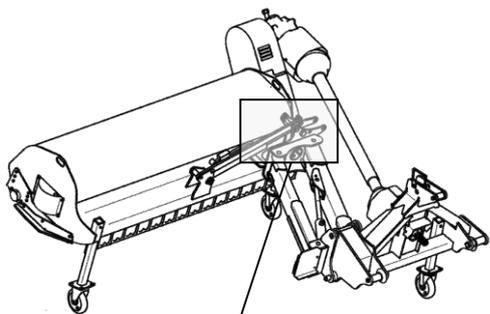
⚠ 危険

- 作業機の下にもぐったり、足を入れたりしないでください。
また、作業機とトラクタの間に入らないでください。
【守らないと】はさまれて死傷するおそれがあります。
- 2人以上で作業をする時は、お互いに合図しあって、注意しながら作業してください。

⚠ 警告

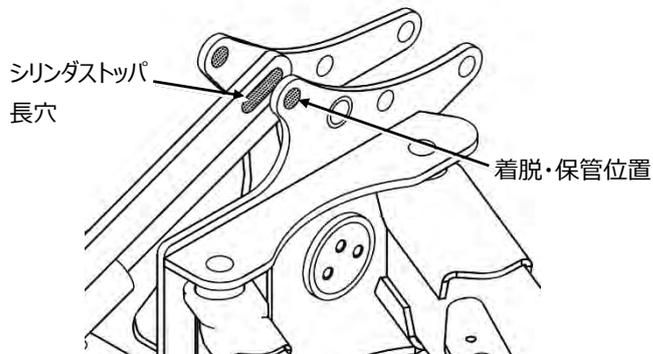
- 作業機の着脱は、平坦で十分な広さがあり、地盤のしっかりした場所でおこなってください。
【守らないと】作業機が動いて、死傷事故を起こすおそれがあります。

ストップピンは目的に応じて、「カイドウフレーム」の「作業位置」、「着脱位置」、「移動位置」のいずれかに挿入してください。(下記参照)

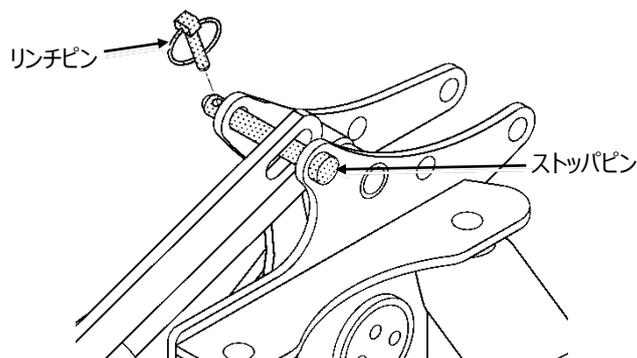


1. 着脱・保管時

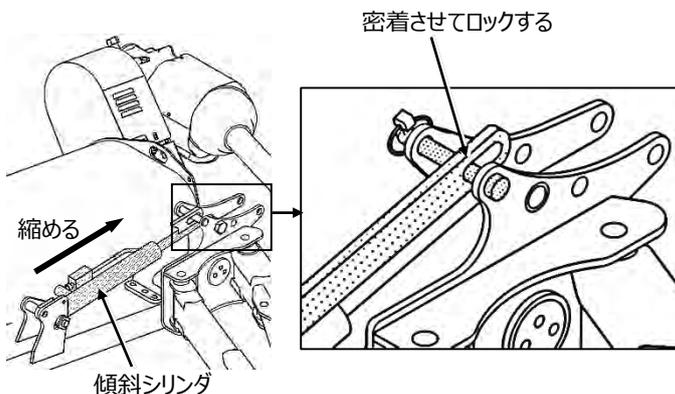
- 1-1. 傾斜シリンダを操作して、作業部を水平にし、「シリンダストップ」の長穴を「カイドウフレーム」の「着脱・保管位置」に合わせます。



- 1-2. 「ストップピン」を差し込み、「リンチピン」で抜け止めをします。入らない場合は、傾斜シリンダを伸縮させ、穴位置を調整します。

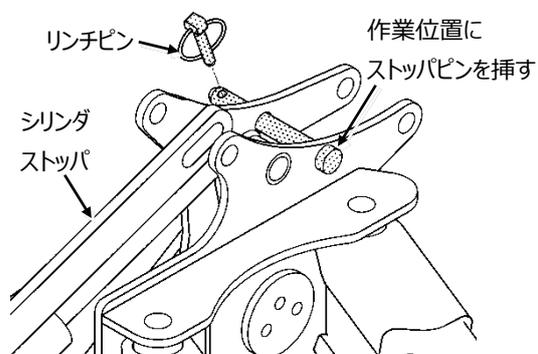


- 1-3. 傾斜シリンダを「縮める」側へ操作し、「ストップピン」と「シリンダストップ」を密着させます。作業部とマストが水平に固定され、着脱・保管ができます。「ストップピン」を抜く時は、ピンが長穴に接しない程度に、傾斜シリンダを「伸びる」側へ操作して抜きます。



2. 作業時

2-1. 「カイドウフレーム」の「作業位置」に「ストップピン」を挿入し、抜け止めをします。このとき、「シリンダストップ」の長穴にはピンを通す必要はありません。傾斜シリンダのロックが解除され、刈取部の角度を変えられるようになります。

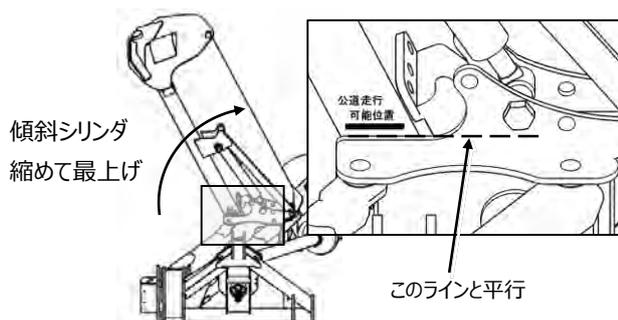


3. 移動時

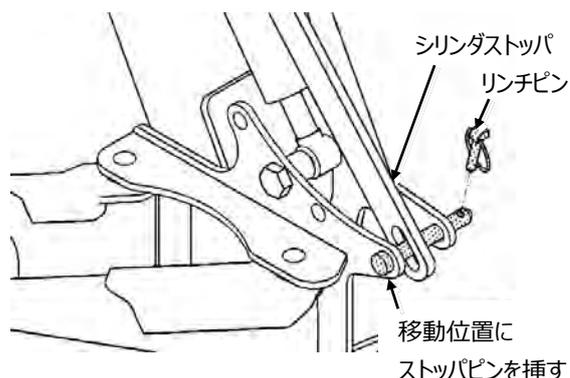
⚠ 注意

- 公道走行時は、必ず、「移動位置」にしてください。本機は、オフセットが格納位置で、刈取部を上方向最大まで傾斜させることで「公道走行可」となります。それ以外での姿勢での公道走行は、法令違反となります。

3-1. 傾斜シリンダを操作し続けて、最上げまで傾斜します。このとき、「カイドウフレーム」上側と、「公道走行可能位置」の表示（ラベル）の線が平行になっていることを確認します。操作し続けても平行にならない場合は、故障の可能性があります。販売店にお問い合わせください。



3-2. 「カイドウフレーム」の「移動位置」と「シリンダストップ」の長穴に「ストップピン」を通し、抜け止めをします。



スタンドの装着

⚠ 危険

- 作業機の下にもぐったり、足を入れたりしないでください。また、作業機とトラクタの間に入らないでください。

【守らないと】挟まれて死傷するおそれがあります。

- 2人以上で作業をする時は、お互いに合図しあって、注意して作業してください。

⚠ 警告

- 作業機の着脱は、平坦で十分な広さがあり、地盤のしっかりした場所でおこなってください。

【守らないと】作業機が動いて、死傷事故を起こすおそれがあります。

- 取付作業する時は、平坦で固い場所でエンジンを停止してからおこなってください。

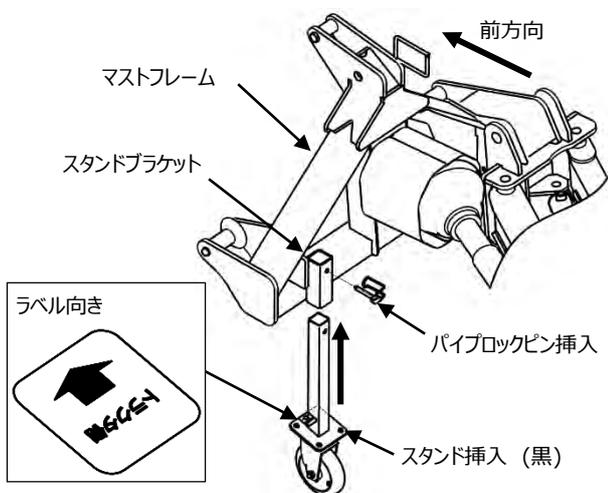
- 移動や作業をする際は、必ずスタンドを全て取り外してください。

【守らないと】地面、段差等への衝突による破損のおそれがあります。

重要

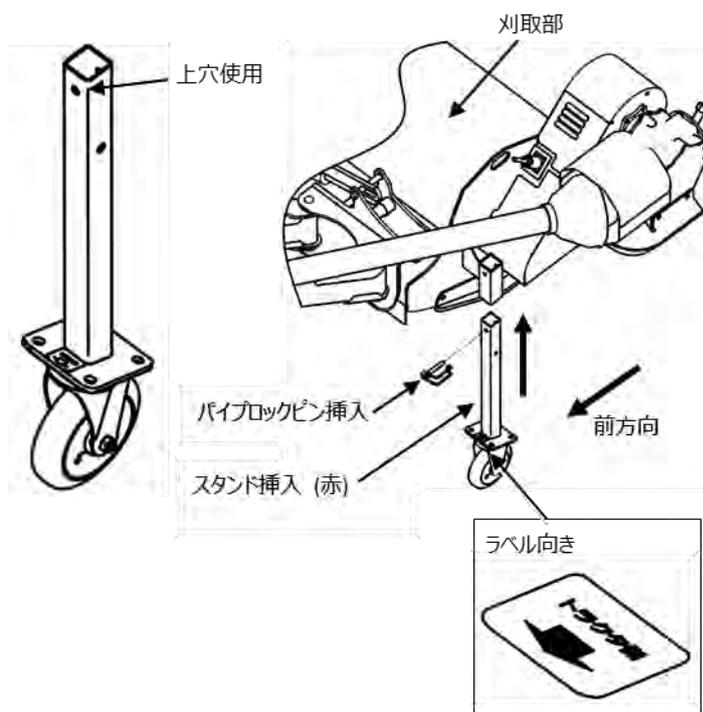
- スタンドは2種類、計3本あります。取り付け箇所、方法を間違えずに装着してください。

1. 機体を地面から浮かせた状態で、マストフレーム左側の「スタンドブラケット」に「黒色のスタンド」を下から挿入します。このとき、キャスター近くに貼り付けられているラベルを確認し、矢印がトラクタ側(作業機前方向)になる向きで組みつけます。
2. 「スタンドブラケット」と「スタンド」の穴を合わせ、「パイブロックピン」を挿入し、抜け止めをします。

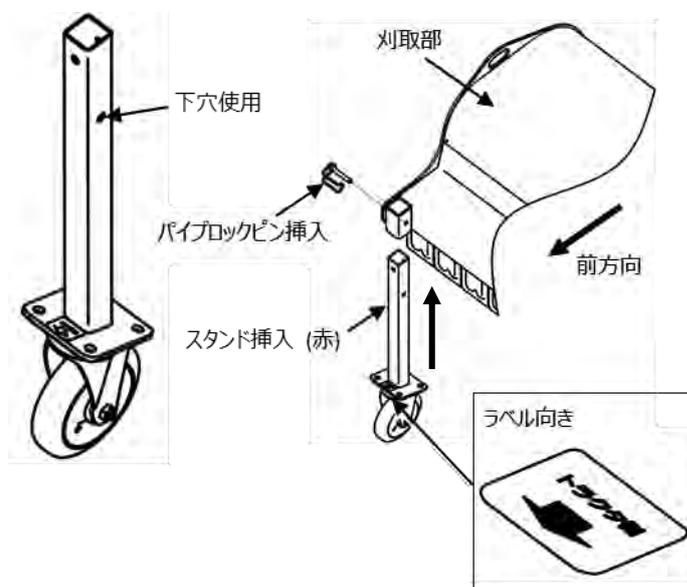


3. 刈取り部の左右に「赤色のスタンド」を装着します。赤色のスタンドには、取り付け穴が2カ所あります。刈り取り部左側へ装着する際は、「上穴」を、右側へ装着する際は「下穴」を使用します。
4. マストフレームへの装着と同様に、矢印がトラクタ側(作業機前方向)になる向きで下から挿入し、穴を合わせて「パイブロックピン」で抜け止めをします。

刈取り部 左側スタンドの装着



刈取り部 右側スタンドの装着



灯火器の取扱

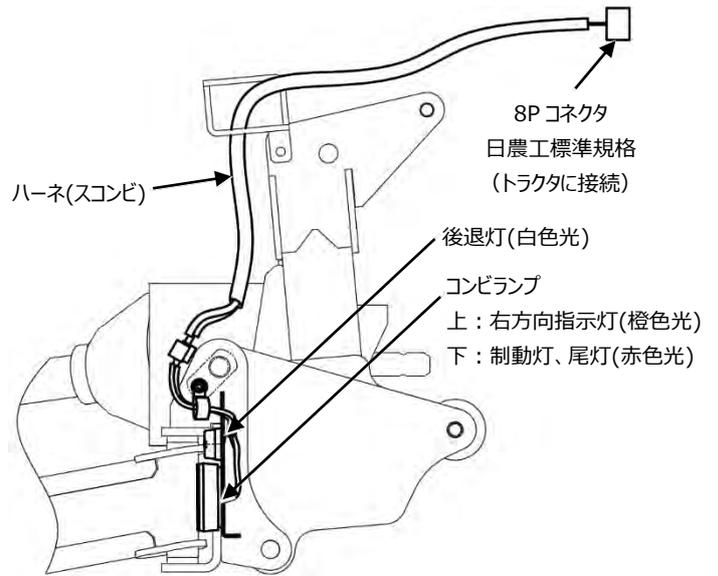
本機には、後退灯、方向指示灯（右）、制動灯、尾灯が装備されています。

⚠ 注意

- 配線は取扱説明書をよく読んでから行ってください。
- コネクタは確実に接続し、水で濡らさないようにしてください。
- 配線後、移動走行を開始する前に、各種ランプが正しく点灯・点滅することを確認してください。
- 本機の灯火器は、移動走行時に本機によって隠れるトラクタの灯火器を補助するための装備です。灯火器が機能しない状態での公道走行は法令違反および、交通事故の原因となります。

重要

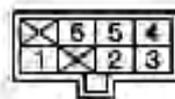
- ハーネスの取り外しの際は、コネクタ接続部の土や汚れをきれいにふき取り、水分はエアブローをかけるなどをして、濡れたままにしないでください。破損の原因になります。
- 長時間使用しないときはトラクタからハーネスを外してください。バッテリーがあがる可能性があります。また、ハーネスの端子がさびないように湿気のない場所で保管してください。
- トラクタ側のコネクタが日農工標準規格であることを確認してから接続してください。トラクタのコネクタが日農工標準規格でない場合はトラクタメーカー販売店にお問い合わせください。
- ハーネスを配索し直す場合、必ず元の位置に固定してください。



1. コネクタの接続は、本機をトラクタに装着してから行います。
2. 本機「ハーネス(コンビ)」の「8P コネクタ」とトラクタの「トレーラカプラ」(8P コネクタ) を接続します。
3. 接続後、各灯火が正しく点灯・点滅するか確認します。本機のコネクタは「日農工標準規格」となっています。トラクタ側がそうでない場合、正しく点灯・点滅しません。トラクタ側の規格は販売店にお問い合わせいただき、必要に応じて変換アダプタ等を用意してください。

補足

- 日農工標準規格作業機側コネクタの端子配置



1	白	接地
2	黄	方向指示灯(左)
3	赤	制動灯
4	緑	方向指示灯(右)
5	黒	尾灯
6	茶	後退灯

※日農工標準規格

トラクタへの着脱方法

1. 装着方法

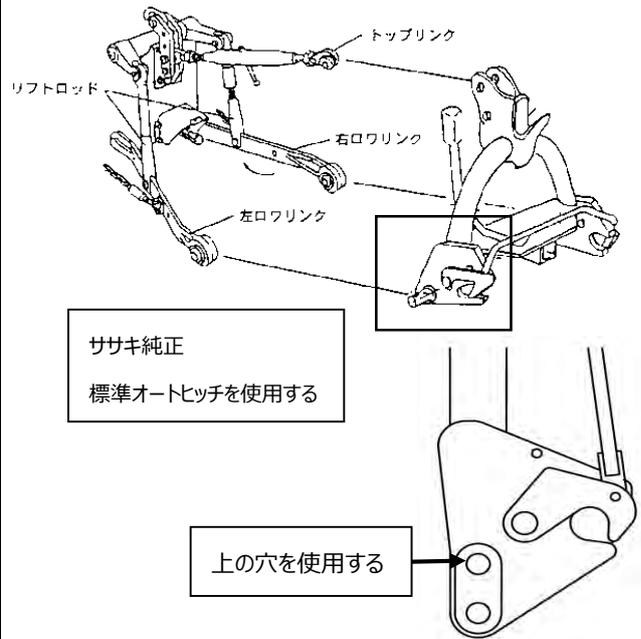
⚠ 危険

- ユニバーサルジョイントを取り付けるときは、必ずエンジンを停止してください。
【守らないと】巻き込まれて死傷事故を起こすおそれがあります。
- 作業中は、作業機の下へもぐったり、足を入れたりしないでください。
- 2人以上で作業をする時は、お互いに合図をしあい、注意しながら作業してください。

⚠ 警告

- 装着は、作業機が傾斜した状態やオフセット位置ではおこなわず、必ず格納位置で水平にしておこなってください。
- 装着作業時は、平坦で固い場所でおこなってください。
- ご使用のトラクタに応じて、トラクタメーカー純正のバランスウェイトを取り付け、バランス調整をしてください。
【守らないと】走行時に安定を失い、転倒・横転して死傷するおそれがあります。

- 1-1. トラクタの標準3点リンクに ササキ純正日農工 I - II 兼用 標準オートヒッチ（以下、Lヒッチ）を左ロワリンク、右ロワリンク、トップリンクの順に装着してください。
Lヒッチのロワピンは上の穴へ付け替えてください（下の穴は使用不可）
トップリンクは標準3点リンク用の長いトップリンクをご使用下さい。
トラクタのリフトロッドとロワリンクの穴位置は巻末の「マッチングリスト」を参照いただくか、販売店へ問い合わせください。



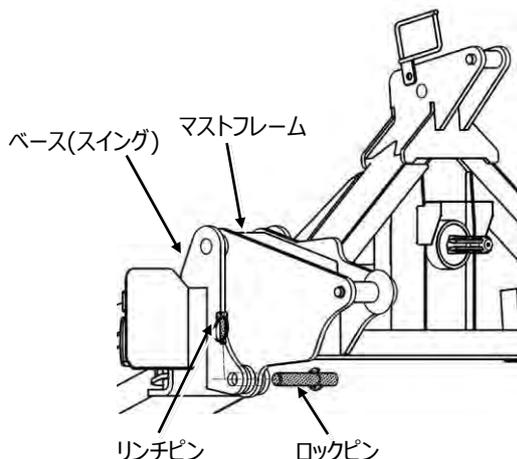
- 1-2. 4L ヒッチの場合、トラクタとLヒッチにユニバーサルジョイントを取り付けます。必ず広角側をトラクタの P T O 軸に取り付けてください。



重要

- ユニバーサルジョイントを取り付けるときは、必ずエンジンを停止してください。
- ユニバーサルジョイントの広角側を作業機側へ取り付けると、ジョイントの破損の原因になります。
- トラクタによって、ユニバーサルジョイントの長さが合わない場合があります。
その場合は、**ユニバーサルジョイントの切断方法**（22 ページ）をお読みください。

- 1-3. 「マストフレーム」に「ロックピン」が挿入されていることを確認します。挿入されていない場合は、挿入し、抜け止めをしてください。

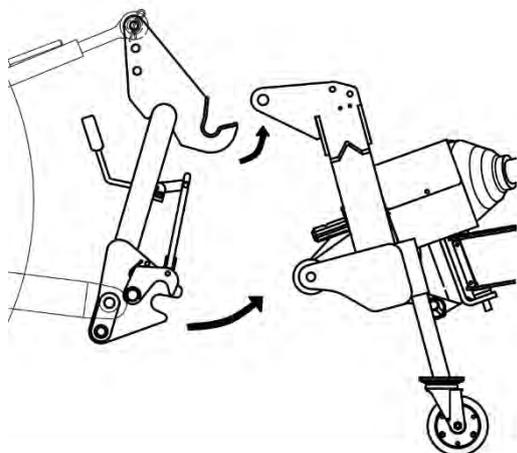


補足

- ロックされていないと、マストフレームが傾き、装着できません。
- スタンドで自立している状態でピンを挿入してください。穴が合わず、挿入できない場合があります。

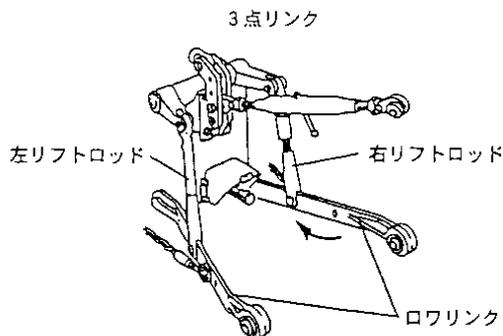
- 1-4. 周りに人や動物・障害物がないことを確認してから、トラクタのエンジンを始動させ、3点リンクを油圧レバーで下げて、本機のマストフレームに向かってゆっくり後退させます。

- 1-5. ヒッチのロックレバーのロックピンを解除してから、Lヒッチのフック部に作業機のトップピンを引っ掛けるように、油圧レバーをゆっくり上げてすくい上げると、左右のロフリンクも自動的に装着されます。

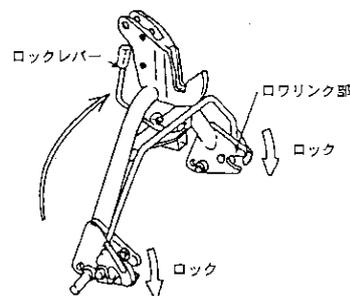


補足

- フック部ですくえなかったり、ユニバーサルジョイントが入らなかったりした場合は、無理に入れようとしないで、やり直してください。
- フック部の下がり量が不足している場合は、リフトロッドの取り付け穴位置を下穴にするか、または、ロフリンク穴位置を前穴へ変えてください。



- 1-6. Lヒッチのロックレバーを操作して、ロフリンクをロックします。

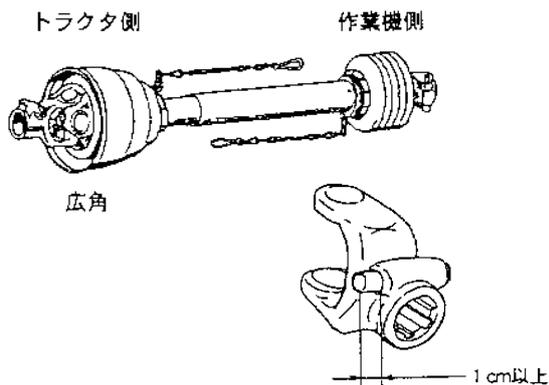


- 1-7. 「マストフレーム」、「刈取部」左右、計3ヶ所のスタンドを全て外します。

1-8. トラクタのエンジンを停止します。

1-9. 3 Lヒッチの場合、ユニバーサルジョイントを装着します。

広角側をトラクタ P T O 軸へ取り付けます。
 トラクタ側、作業機側ともにジョイントのノックピンが正確に軸溝にはまっているか確認してください。このときノックピンが 1 cm 以上出ているれば正常です。

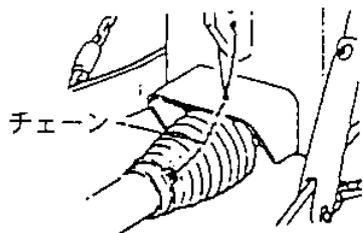


重要

- ユニバーサルジョイントを取り付けるときは、必ずエンジンを停止してください。
- ユニバーサルジョイントの広角側を作業機側へ取り付けると、ジョイントの破損の原因になります。
- トラクタによって、ユニバーサルジョイントの長さが合わない場合があります。

その場合は、**ユニバーサルジョイントの切断方法** (22 ページ) をお読みください。

1-10. ユニバーサルジョイントに付属しているチェーンをトラクタ及び作業機に取り付けて、カバーの回転防止をしてください。



1-11. シリンダの油圧ホースカプラをトラクタ外部油圧取り出しに接続してください。

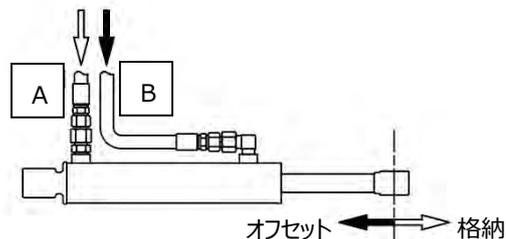


補足

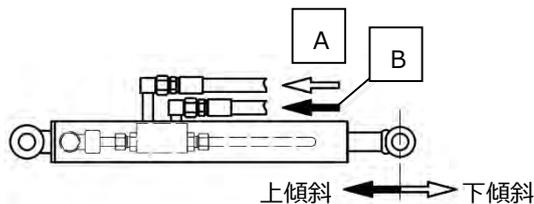
- トラクタと接続する油圧ホースは、KZL147~167G/Y は油圧複動 2 系統で 4 本、KZL147GS/YS は油圧複動 1 系統で 2 本です。外部油圧取出しのレバー操作と作動油吐出方向の関係を確認し、各ホースを接続してください。

A ポートに作動油が流入したとき、シリンダは伸び、**B** ポートに流入したとき、縮みます。

<オフセットシリンダ>

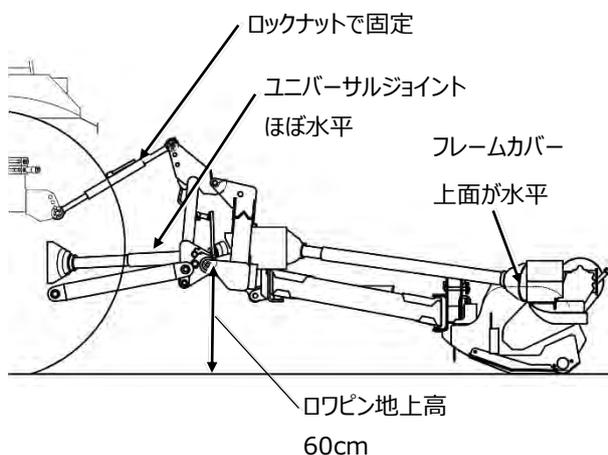


<傾斜シリンダ>

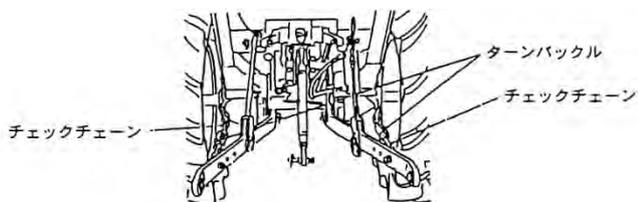


- オフセットモアの油圧ホースカプラは、工場出荷時で 3/8 のオスが組み付いています。必要に応じてトラクタ側の外部油圧の接続カプラに合わせて組み替えてください。(3/8 メスカプラが付属されています。)

- 1-12. トラクタのエンジンを始動し、作業姿勢を調整します。ゲージローラが接地した状態で、カバー上面が水平になるようにトップリンクの長さを調整してください。トップリンクを縮めると前側に傾き、伸ばすと後側に傾きます。調整後、ロックナットで確実に固定してください。



- 1-13. 本機をトラクタの3点リンクで少し持ち上げ、トップリンクが、トラクタの中心線上にあるようにチェックチェーンを、左右均等に張ってください。その後、左右のチェックチェーンのターンバックルを0.5～1回転程度逆に戻し、ロックしてください。



重要

- 3点リンクを持ち上げる前に、トラクタの取扱説明書「3点リンクおよび油圧関係」をよく読んでください。

- 1-14. 3点リンクをゆっくりと上げながら、作業機とトラクタがぶつからないか確認してください。ぶつかる場合は、作業機とトラクタの間隔が10cm以上離れるように「上げ規制」をしてください。

2. 取り外し方

⚠ 危険

- ユニバーサルジョイントを取り外しするときは、必ずPTOクラッチを切り、エンジンを停止してください。
【守らないと】巻き込まれて、死傷事故を起こすおそれがあります。
- 機械の下に潜り込んでの作業はおこなわないでください。
【守らないと】機械が予期せず落下して、死傷事故を起こすおそれがあります。
- 2人以上で作業をする時は、お互いに合図を合図して、注意しながら作業してください。

⚠ 警告

- 着脱は、作業機を傾斜させたり、オフセット位置でおこなったりせず、必ず格納位置で水平にしておこなってください。
- 脱着作業をする時は、平坦で固い場所でおこなってください。

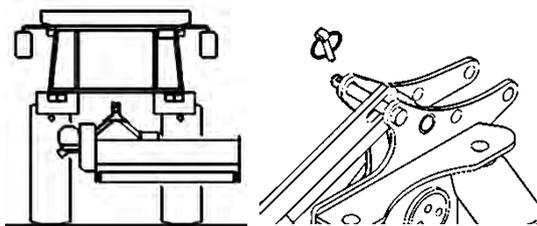
⚠ 注意

- 周りに人や動物・障害物がないことを確認してから作業してください。

- 2-1. 平坦で固い場所を選んでください。

その際、周りに人や動物・障害物がないことを確認してください。

2-2. 本機を「オフセットシリンダ」にて「格納位置」にし、「傾斜シリンダ」にて「水平位置」にします。「シリンダストップ」の長穴が「着脱・保管位置」に合っていることを確認して、ストップピンを差し込み、リンチピンで抜け止めをします。(13 ページ参照)

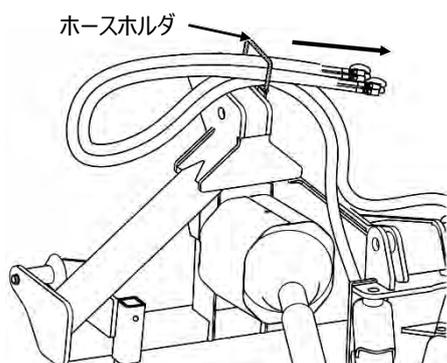


2-3. トラクタのエンジンを停止します。

2-4. トラクタ外部油圧レバーを 2～3 回動かかし、油圧シリンダ内の残圧を抜き、油圧カプラを外します。外したカプラにキャップをし、トップマストのホースホルダに通して、カプラが地面に着かないように保管してください。

KZL147GS/YS の場合は、電源ハーネスを外します。

3 L ヒッチの場合、ユニバーサルジョイントに付属しているチェーンをトラクタ及び作業機から外してユニバーサルジョイントを取り外します。



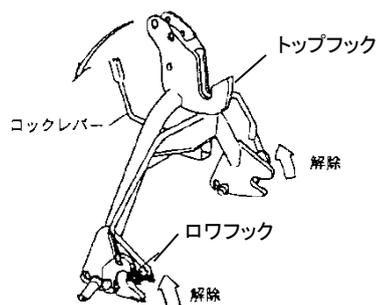
2-5. 「マストフレーム」に「ロックピン」が挿入されていることを確認します。挿入されていない場合は、挿入し、抜け止めをしてください。(18 ページ参照)

補足

- ロックされていないと、マストフレームが傾き、取り外しできません。

2-6. マストフレーム、刈取部左右にスタンドを取り付けます。**スタンドの装着**(15 ページ)参照。

2-7. L ヒッチのロックレバーを解除し、すべてのスタンドが地面に着くまでゆっくりと 3 点リンクを下げます。そのまま、ロワフック部を外し、さらに油圧レバーで 3 点リンクを下げながら、トラクタをゆっくり前進させ、L ヒッチのトップフック部を、オフセットモアのトップピンから外します。



ユニバーサルジョイントの切断方法

ユニバーサルジョイント（以下ジョイント）の長さは、必ず適正長さの範囲内で使用してください。

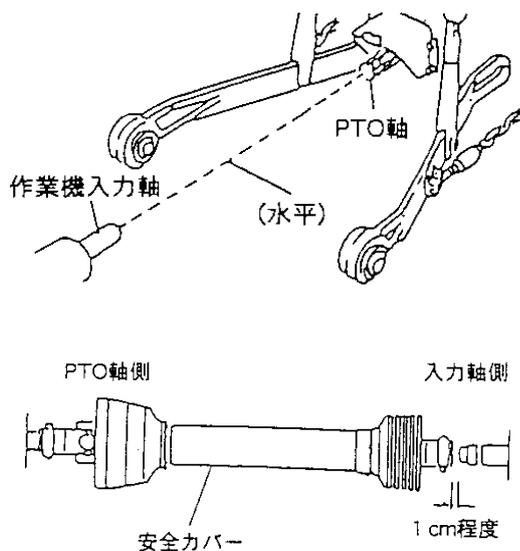
短すぎるとジョイントが抜けて思わぬ事故につながり、長すぎると機械を破損してしまいます。

短い場合は交換し、長い場合は切断して使用してください。

1. 適正長さの確認

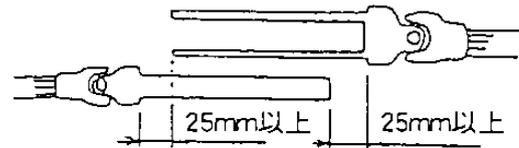
トラクタの P T O 軸と作業機の入力軸が、水平で一直線上にある時がユニバーサルジョイントが一番短くなる時です。

このとき、トラクタの P T O 軸にユニバーサルジョイントの片方を挿入し、一番縮めた状態で作業機入力軸とユニバーサルジョイントの間に 1cm 程度のスキマがあればそのまま使用できます。

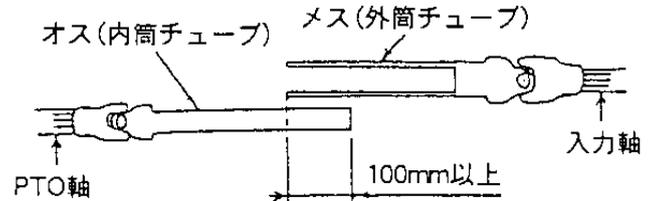


また、ユニバーサルジョイントのオス・メスを外して、それぞれ P T O 軸と入力軸に取り付け、水平で一直線上にある時（最縮時）に、下図のスキマが 2 5 mm 以上あり、作業機を上下させてユニバーサルジョイントが一番伸びた時（最伸時）に、オス・メスの重なりが 1 0 0 mm 以上あると、適正長さの範囲です。

最縮時

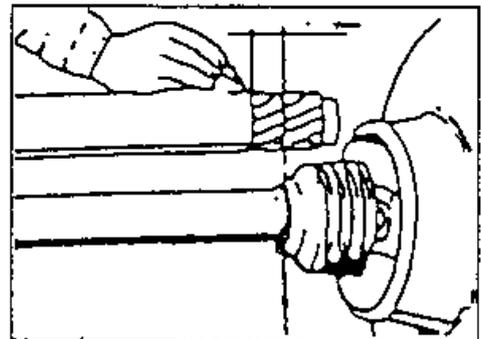


最伸時

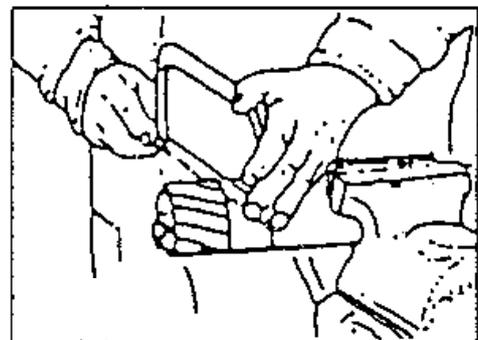


2. 切断方法

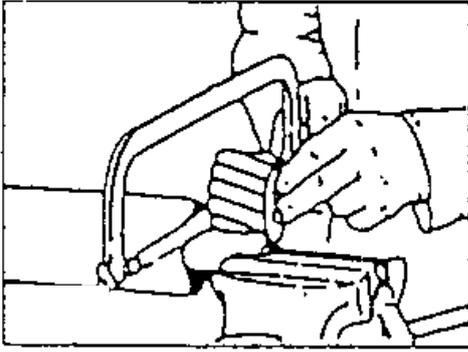
- 2-1. ユニバーサルジョイントのオス・メスを外して、トラクタと作業機の最短の作業位置に合わせ、相手側の安全カバーの筒の端から、2 5 mm 程度のスキマがあく位置に、オス・メスの安全カバーへそれぞれ、マークをつけます。



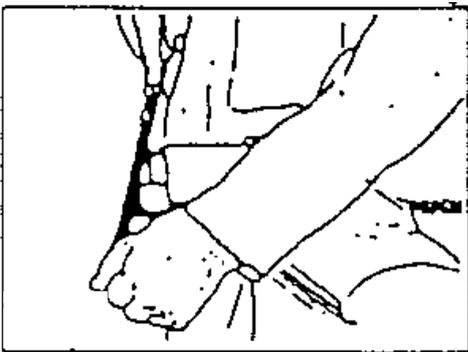
- 2-2. オス・メスの安全カバーに、マークをした長さだけ、安全カバーを切断します。



2-3. オス・メスの内外筒チューブを、安全カバーを切断した部分と、同じ長さだけ切断します。



2-4. 切断後は切り口にヤスリをかけ、バリを取り除きスムーズにスライドできるようにします。



刈高さの調整方法

⚠ 危険

- 作業機の下にもぐったり、足を踏み込んだりしないでください。

【守らないと】何らかの原因で作業機が下がったときに、傷害事故をおこすおそれがあります。

- 2人以上で作業するときは、お互いに合図をして、確認しあって作業してください。

トラクタのエンジンをかけるときや、エンジンが作動している間は、十分に注意してください。

【守らないと】機械が不意に動き出し、思わぬ事故につながるおそれがあります。

⚠ 警告

- 交通の危険がなく、機械が倒れたり動いたりしない、平坦で十分な広さがある、地盤のしっかりした場所で、トラクタの前輪には車止めをして調整作業をしてください。

【守らないと】機械が転倒するなど、思わぬ事故をまねくおそれがあります。

- 調整作業をするときは、必ずエンジンを停止してください。

【守らないと】傷害事故・機械の損傷を引き起こすおそれがあります。

⚠ 注意

- 危険ですので刈り高さの調整は、必ず3点リンクをできるだけ下げ、ロックしてください。また、作業機は格納位置・水平状態にしておこなってください。

- 各部のボルト・ナットのゆるみがないか確認してください。

刈り高さは、ゲージローラの取付けブラケットの片側3本のボルト（左右両側で合計6本）を緩め、取付位置を変えることにより、3段階の高さを選択出来ます。

1. オフセットモアをトラクタに装着します。
2. PTO クラッチを「切」にします。
3. トラクタのポジションレバーを操作して、オフセットモアを上げてください。

補足

- 上げすぎると、穴の位置あわせが難しくなります。「ゲージローラ」が地面から 10cm 程度の高さで止めます。

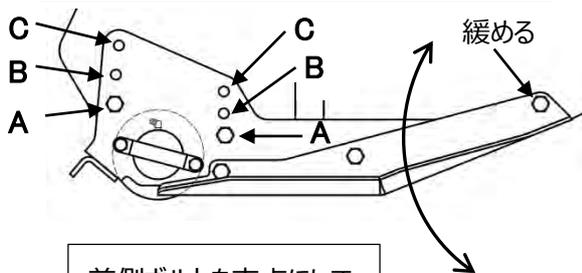
4. トラクタのエンジンを停止します。
5. 刈り取り部下側に着いている、「ローラブラケット」の前方 1 ヶ所のボルトを軽く緩め、後方 2 ヶ所の取り付けボルトを外します。

補足

- ボルトを外すとゲージローラの固定が無くなり、落下しますので十分注意しておこなってください。また、ゲージローラの重量は重いため十分注意して作業してください。

6. 外した後方 2 ヶ所のボルトを A～C のいずれかの穴に入れ、すべてのボルトをしっかりと締めてください。(必ず左右とも同じ穴に取り付けてください) A～C の穴位置に対する、刈高さの目安は下表の通りです。

穴位置	刈高さ (cm)
A 穴	0
B 穴	4
C 穴	7



前側ボルトを支点にして
穴位置を調整

補足

- 刈り高さは、フレームカバー面が地面と平行になった時（作業姿勢時の状態）のものを表しています。作業姿勢の調整方法は **トラクタへの着脱方法**（20 ページ、1-12 項）を参照してください。

作業前の点検

警告

- **点検・調整作業は、交通の危険がなく、機械が倒れたり動いたりしない、平坦で十分な広さがある、地盤のしっかりした場所でおこなってください。**【守らないと】機械が転倒するなど、思わぬ事故をまねくおそれがあります。
- **点検・調整作業をするときは、必ずエンジンを停止してください。**【守らないと】傷害事故・機械の損傷を引き起こすおそれがあります。

作業機の性能を十分に引き出し、長くご使用いただくために、必ず作業前の点検をおこなってください。

1. ミッションケースのオイル量・オイル漏れないか確認（31 ページ参照）
2. ベルトの張り具合の確認調整方法は、**保守管理について**（29 ページ）を参照ください。
3. 可動部へのグリス注入（31 ページ参照）
4. ユニバーサルジョイントのグリス注入（32 ページ参照）
5. 各部の損傷、ボルト・ナットの緩み点検
6. ナイフの取り付けボルトの緩み、ナイフの減り確認（28 ページ参照）

運転および草刈作業について

1. 移動と圃場への出入りのしかた

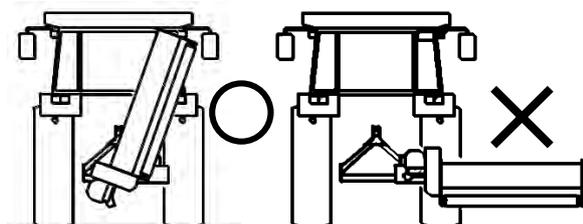
⚠ 警告

- 運転者以外の人や荷物をトラクタやオフセットモアに乗せてトラクタを運転しないでください。
【守らないと】 傷害事故をおこすおそれがあります。
- 移動走行時は必ず格納位置にして、必ずPTOを切ってから走行してください。
【守らないと】 重大な事故をおこすおそれがあります。
- 公道走行時は作業機をオフセット位置から格納位置にして、フレームカバーの傾斜を最大に上げて移動位置にしてから走行してください。
【守らないと】 法令違反となります。
- 急発進・急加速・高速走行・急制動・急旋回はしないでください。

⚠ 注意

- 移動中、刈取り部が落ちてきて危険ですので、ピンをシリンダストップに差し込んで固定してください。
- 移動時は必ずスタンドを外してください。

- 1-1. 圃場へ移動するときは、トラクタのポジションレバーでオフセットモアを上昇(公道走行時は、地上高20cm)させ、「オフセットシリンダ」で「格納位置」にして、「傾斜シリンダ」で「傾斜を最上げ」にしてください。守らないと法令違反となります。



- 1-2. 「シリンダストップ」の長穴が「カイドウフレーム」の「移動位置」の穴にあっていることを確認し、ストップピンとリンチピンでフレームカバーを固定してください。(14 ページ参照)

- 1-3. 「マストフレーム」に「ロックピン」が挿入されていることを確認します。挿入されていない場合は、挿入し、抜け止めをしてください。(18 ページ参照)

- 1-4. トラクタの油圧を確実にロックし、チェックチェーンをしっかり張って、横振れしないことを確認してから走行してください。

- 1-5. 圃場への出入りは、直角に前進で安全な遅い速度でおこなってください。
高低差の大きい急斜面の登り下りや、溝越え、あぜ越えが必要な場合は、十分な強度のあるあゆみ板（傾斜が15°以下になる長さ）を使用し、確実に固定してから低速でおこなってください。

- 1-6. 上り坂は、トラクタの前部が浮き上がり危険です。フロントウェイトを装着し、オフセットモアをできるだけ下げて登ってください。

2. 作業のしかた

危険

- 安全のため、作業時は必ずシートベルトを締めてください。
- 回転部分には絶対に手や足を入れないでください。
- 回転部分に物が巻きついたときは、PTOの回転を止め、必ずエンジンを停止してから取り除いてください。
【守らないと】回転部に巻き込まれ、死傷するおそれがあります。

警告

- 作業前及び作業中は、必ず機械の周辺に人がいないことを確認し作業してください。
【守らないと】飛散物をぶつけ、重大な事故をおこすおそれがあります。
- 作業機の進路上に立木や土手等の障害物がある場合は、機体をぶつけないよう、余裕を持って停止、回避してください。
【守らないと】機械の破損、重大な事故をおこすおそれがあります。
- PTOの変速シフトを3速以上にしての作業は絶対におこなわないでください。
【守らないと】機械の破損による重大な事故をおこすおそれがあります。
- 圃場内の低速移動でも格納位置にして移動してください。斜面作業をする場合、左右バランスが変わります。必ずトラクタは平坦な所を走るようにしてください。
【守らないと】バランス等を崩し、転倒等の重大な事故をおこすおそれがあります。
- 法面作業をする場合、低速で余裕をもって作業してください。
【守らないと】重大な事故を起こし、死傷するおそれがあります。

- 作業するとき以外は、必ずPTO回転を停止してください。
【守らないと】不意にPTOが回転し、巻き込まれて死傷するおそれがあります。
- 直径3cm以上の枝や低木には使用しないでください。また、丸太や切り株の粉碎等にも使用できません。
【守らないと】機械の破損、飛散物による事故をおこすおそれがあります。
- 作業中、白煙、ベルト鳴き、異臭等の異変に気付いた際は、直ちにPTOクラッチを切り、エンジンを停止してから点検してください。
【守らないと】火災等の思わぬ事故につながるおそれがあります。

注意

- つる状の草やビニールシート、紐など長いものは、ロータ軸に巻きつきやすいので、作業前に圃場から取り除いてください。
【守らないと】巻きつきを取り除く際に怪我をするおそれがあります。
- 作業時は必ずスタンドを外してください。

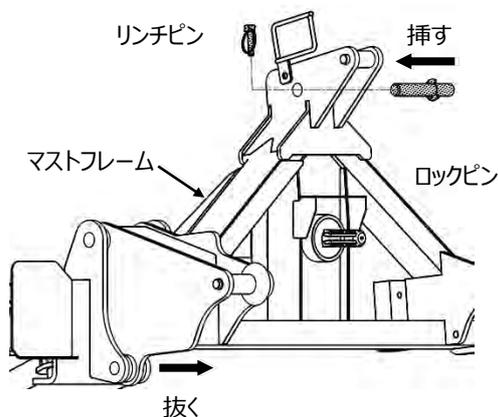
- 2-1. 作業前に圃場の状況を必ず確認してください。
特に、草丈が高い場合は地表面が見えづらいため、危険が伴います。
地表の凸凹や段差・異物がないか、危険なところがないかなど安全に作業できることを十分確認してから作業してください。
また、オフセットモアのロータ軸は高速で回転するため、石など硬いものは前後左右に20メートル以上飛散する場合がありますので、周囲に人や動物がいないことを確認してから作業してください。

- 2-2. 「シリンダストップ」を固定している「ストップピン」を抜き取り、「作業位置」に差替えます。
(14 ページ 2 項参照)

重要

- 作業時は必ず、「作業位置」にストップピンを差替えてください。シリンダ操作ができないばかりか、機械の破損の原因になります。

- 2-3. 「マストフレーム」の「ロックピン」を抜き取り、トップの「保管穴」に挿し込み、抜け止めします。



補足

- ロックピンを抜くことで、刈取部が起伏に追従して上下し、仕上がりの向上、機体への負荷軽減になります。

重要

- ロックピンを挿したまま作業しないでください。機体破損のおそれがあります。
- 2-3. トラクタの作業速度は、通常 2～4 km/h の速度で作業します。
スタンドは、必ず外して作業してください。
- 2-4. PTO を低回転で接続し、徐々に回転数を上げます。PTO の変速シフトは、通常「1 速 (PTO 540rpm)」で使用します。圃場条件、ナイフの磨耗状態により切れにくくなってきた場合は、「2 速 (PTO 750rpm)」を使用してください。ただし、「2 速」を使用した場合、ロータの回転速度は上が

りますが、負荷による影響を受けやすく、回転ムラや、エンジンドロップが起きやすくなりますので作業の状況を見ながら選択してください。

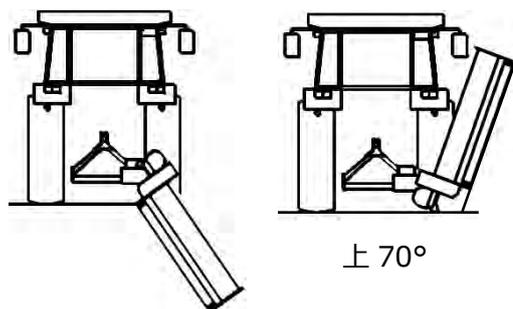
重要

- PTO の変速シフトを 3 速以上にしての作業は行わないでください。

- 2-5. 圃場条件によりトラクタのエンジン馬力が不足気味のときは、作業速度を下げるか、PTO 2 速のときは 1 速に下げるなどの操作をして、トラクタや作業機に負担をかけない作業をしてください。

- 2-6. 草刈り作業は、場所に合わせてオフセットシリンダを調整して作業機のオフセット位置を変えたり、傾斜シリンダを調整して傾斜角度を変えたりして、適宜地形に合わせて作業してください。

斜面角度は下 55°～上 70°まで対応できます。



重要

- 傾斜シリンダを伸ばしすぎると、作業部が地面に押し付けられ、破損の原因になりますので注意してください。

- 2-7. 作業時、トラクタのエンジンの回転数が急に下がったときなどは、異常が発生していることがありますので、ただちに PTO クラッチを切り、エンジンを止めます。それから、オフセットモアを点検し、原因を取り除いてください。

トラブルの原因と処置方法 (34 ページ参照)

3. KZL147GS/YS の場合

KZL147GS/YS の場合、コントローラによってオフセットシリンダと傾斜シリンダのどちらを動かすかを切り替えます。

3-1. オフセットシリンダを動かしたい場合は、スイッチを「オフセット」側に倒し、トラクタの外部油圧操作レバーを操作してください。

3-2. 傾斜シリンダを動かしたい場合は、スイッチを「傾斜」側に倒し、トラクタの外部油圧操作レバーを操作してください。

重要

- 作業終了後は、スイッチを「オフセット」側に入れて保管してください。バッテリー上がりの原因になります。

作業上の注意

警告

- 本機を装着すると、前後バランスが変わります。発進時・登坂時にトラクタの前輪が浮く場合は、フロントウェイトを取り付けてください。
【守らないと】転倒や操舵不良の原因になり、思わぬ事故を引き起こす恐れがあります。
- 適応トラクタの範囲内で使用してください。適応範囲内のトラクタでも、発進時・登坂時にトラクタの前輪が浮き上がる場合は、フロントウェイトを装着してください。
【守らないと】転倒や操舵不良の原因になり、思わぬ事故を引き起こす恐れがあります。
- 圃場から出るときに、前輪が浮き上がる場合は、転倒する恐れがあるので、無理をせずに後退で出てください。その後、フロントウェイトを、装着してください。
【守らないと】転倒や操舵不良の原因になり、思わぬ事故を引き起こす恐れがあります。
- 作業中は作業機に、人を近づけないでください。

い。特に、子供に注意してください。

【守らないと】機械に巻き込まれたり、思わぬ事故につながったりする恐れがあります。

- エンジンを停止するときは、必ず作業機を下ろしてから停止してください。

エンジン始動時に、作業機が急に下がることがあるので危険です。

- 2人以上で作業をする場合は、お互いに合図をして、確認しながら安全に作業してください。特にトラクタのエンジンをかける時や、エンジンが作動している間は、十分注意してください。

- 作業中、白煙、ベルト鳴き、異臭等の異変に気付いた際は、直ちに PTO クラッチを切り、エンジンを停止してから点検してください。

【守らないと】火災等の思わぬ事故につながるおそれがあります。

- 点検・整備、からみついた草等を取る場合は、トラクタのエンジンを停止してからおこなってください。

【守らないと】不意に機械が動き、巻き込まれてケガをします。

- 点検整備をする場合は、平坦な場所でエンジンを停止しておこなってください。

【守らないと】トラクタが動きだして、ケガをする恐れがあります。

- 格納は平坦な場所に、保管してください。

1. PTOクラッチの接続は、エンジン回転数を必ず下げた状態で接続し、徐々に回転数を上げてください。

2. 異常や異音が発生した場合は、直ちに PTO クラッチを切り、エンジンを停止してから点検・処置してください。

トラブルの原因と処置方法 (34 ページ) をお読みください。

3. 逆転 P T O は、使用できません。
使用しても、ワンウェイクラッチ（一方向回転）により回転がロータ軸に伝達しません。
4. 運転者が運転席を離れる時は、必ずエンジンを停止し、駐車ブレーキをかけてください。
5. 作業中、補助作業者は機械から **2 0 m 以上離れる** ように指示して、作業してください。
(絶対に機械の周囲に人を近づけないこと、人が近づいたらただちに作業を中止すること)
6. 作業の進路上に立木や土手等の障害物がある場合は、機体をぶつけないよう、余裕を持って停止、回避してください。

保守管理について

⚠ 危険

- 機械の下に潜り込んでの作業はおこなわないでください。
【守らないと】機械が予期せず落下して、死傷事故を起こすおそれがあります。

⚠ 警告

- 点検・整備をする場合は、交通の危険がなく、機械が倒れたり動いたりしない、平坦で十分な広さがある、地盤のしっかりした場所でおこなってください。
【守らないと】機械が転倒するなど、思わぬ事故をまねくおそれがあります。
- 点検・整備をする場合は、トラクタのエンジンを停止してからおこなってください。
【守らないと】不意に機械が動き、巻き込まれてケガをします。
- 点検・整備をする場合は、エンジンを停止し、ブレーキをかけてからおこなってください。
【守らないと】トラクタが動きだして、ケガをするおそれがあります。

1. V ベルトの張り調整

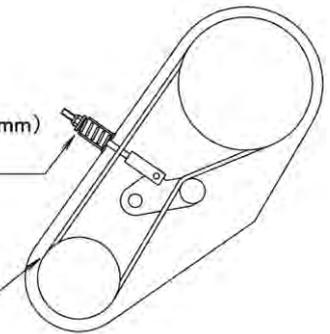
V ベルトの交換時は、ササキ指定 V ベルトを使用してください。

(指定外 V ベルトを使用した場合、刈り取り作業に支障をきたします)

新品の V ベルトは初期伸びがありますので、下図要領で初回 2 時間までは 3 0 分毎に、それ以降は作業前後に調整してください。

六角ナットを締め込んで、バネ高さを 52~54 mm (パイプと座金の隙間が 2~4 mm) に調整して下さい。

品番 KD1-215100-0
名称 V ベルト (W800) SB-56



2. ナイフの交換時期

ナイフが摩耗すると刈り取り性能が低下します。

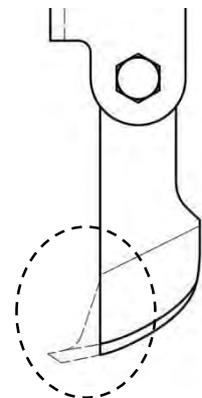
下図のような摩耗状態になりましたらナイフを交換してください。

重要

- ナイフの交換は 1 度に全数交換してください。機械破損の原因となります。

2-1. ガンマナイフの場合

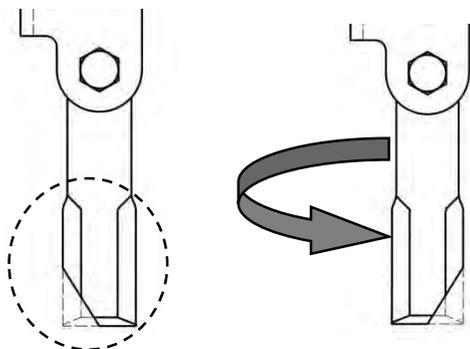
ナイフ先端が根元の板とほぼ同じラインになったら交換時期です。



2-2. Y字ナイフの場合

ナイフ先端が板の幅の半分程度まで摩耗が進行したら交換、または反転時期です。

Y字ナイフは反転して使用可能です。
両側摩耗したら交換時期です。



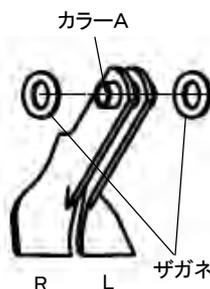
3. ナイフの組み付けについて

警告

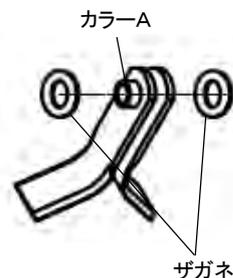
- ナイフ交換時は、必ずPTOを切って、トラクタのエンジンを止めてください。
【守らないと】回転体に巻き込まれ、傷害事故を引き起こします。
- 3点リンクが下がらないように、トラクタの油圧調整バルブを閉じて完全にロックしてください。
また、作業機と地面との間には台を置くなどの落下防止対策をしてください。
【守らないと】機械にはさまれ、傷害事故を引き起こします。
- ナイフ組立後、必ずナイロンナットの締め忘れがないか確認してください。
【守らないと】回転時ナイフが飛び出してケガをするおそれがあります。

3-1. 図のように、ナイフL、ナイフRをカラーAに組み込み、両側にザガネを組み込んでください。

ガンマナイフ (G) 仕様



Y字ナイフ (Y) 仕様



3-2. ナイフをホルダーの穴位置に合わせてください。

3-3. 六角ボルトを通してナイフを組み立てし、バネ座金、ナイロンナットでしっかりと締めこんで固定してください。ただし、ロータ軸両端のホルダーに取り付けるボルトは専用のボルトになっておりますのでご注意ください。

ガンマナイフ (G) 仕様

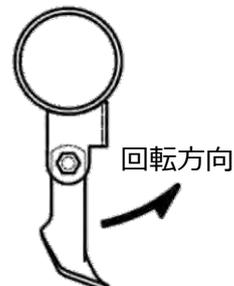


Y字ナイフ (Y) 仕様



重要

- ガンマナイフ (G) 仕様の場合は、ナイフの向きに注意して組立してください。
※右図参照
(ロータ軸右側から見た図)



4. 作業シーズン中

4-1. 作業開始前

ボルト・ナット・ピン類の緩みや脱落がないか確認をして、必要であれば補充して、給油・注油をしてから作業をしてください。

4-2. 作業終了後

水洗いをして汚れを落とし、ボルト・ナット・ピン類の緩みや脱落がないか確認をして、必要であれば補充し、給油・注油してください。

ただし、コントローラは電子部品を使用していますので水濡れ厳禁です。

雨ざらしや洗浄機、水道ホース等での水洗いはしないでください。

5. 作業シーズン終了後

水洗い・乾燥・補修塗装・給油・塗油等を行い、破損部品・脱落部品がある場合は、早めに部品交換・修理をおこなってください。

格納は、湿気や埃がなく、平坦で安全な場所に安定させて保管してください。

6. オイル交換およびグリース注油について

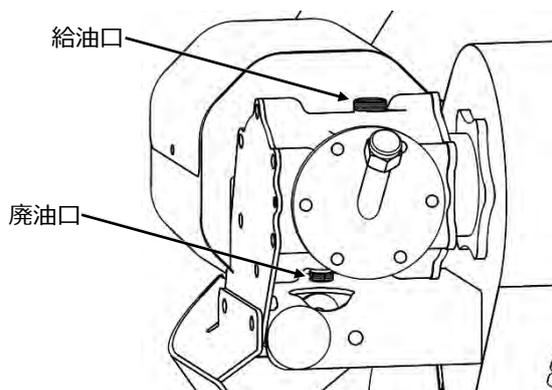
6-1. オイルの給油・廃油場所はミッションケースです。

油種 … 自動車用ギヤオイル

(# 8 0 ~ # 9 0)

油量 … 0. 5 L

注意 : 初回の給油は、新品から使用後 20 時間。2 回目以降は 5 0 時間を目安に交換してください。



6-2. グリース給油箇所は マストフレーム支点部、ベアリングユニット部、各シリンダ、ワンウェイホルダー部、ベルトテンション支点部、傾斜支点部、スイングフレーム支点部、ゲージローラ部、ユニバーサルジョイントの計 26 ヶ所です。

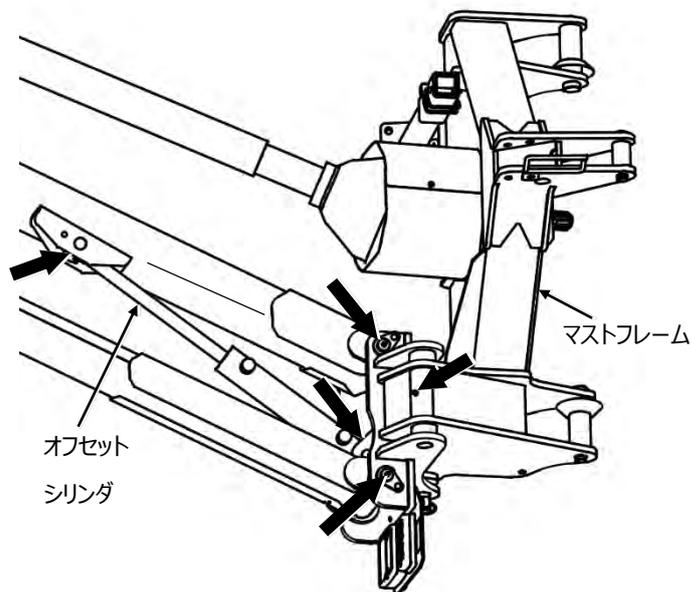
使用グリース : リチウムグリース
工場出荷時 : J X エネルギー
(エピノックグリース A P (N))

重要

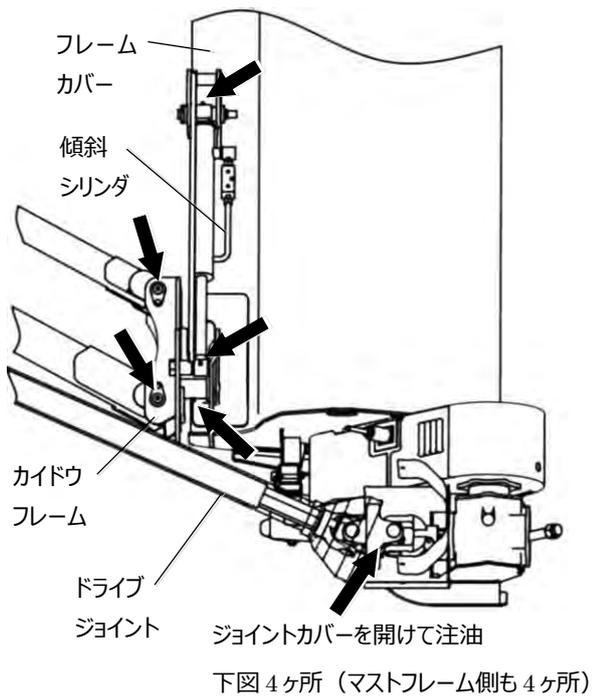
- ワンウェイクラッチ、テンションアームに給油する際は、グリースを入れすぎないように注意してください。入れすぎると、グリースが V ベルトに飛散・付着し、ナイフが駆動しなくなる場合があります。

- 注油箇所

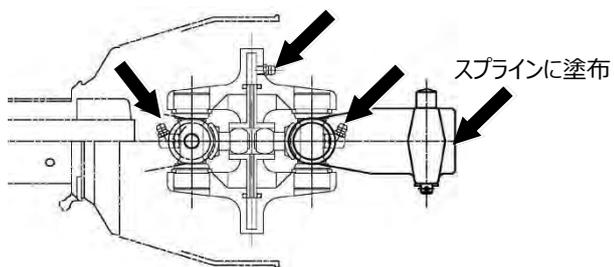
- ・マストフレームまわり : 3 ヶ所
- ・オフセットシリンダ : 2 ヶ所



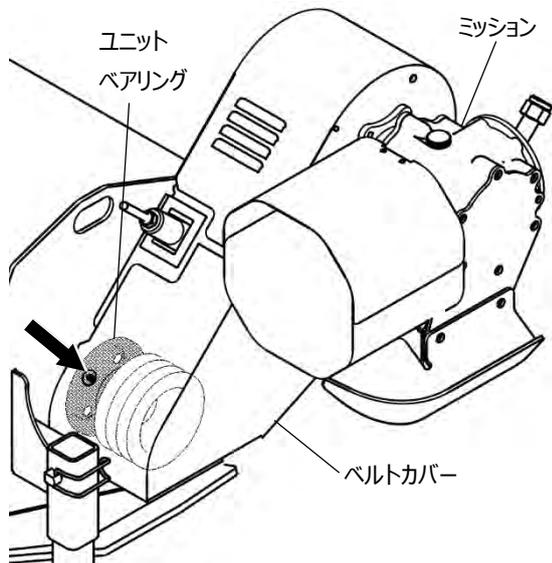
- ・カイドウフレーム：3ヶ所
- ・傾斜シリンダ：2ヶ所
- ・ドライブジョイント：8ヶ所



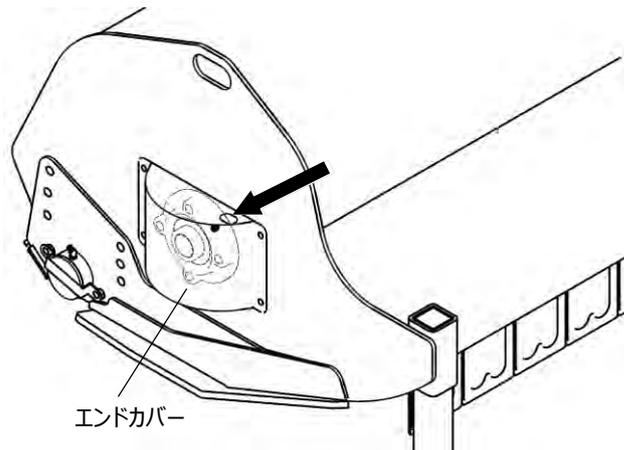
ドライブジョイント（マストフレーム側も同様）



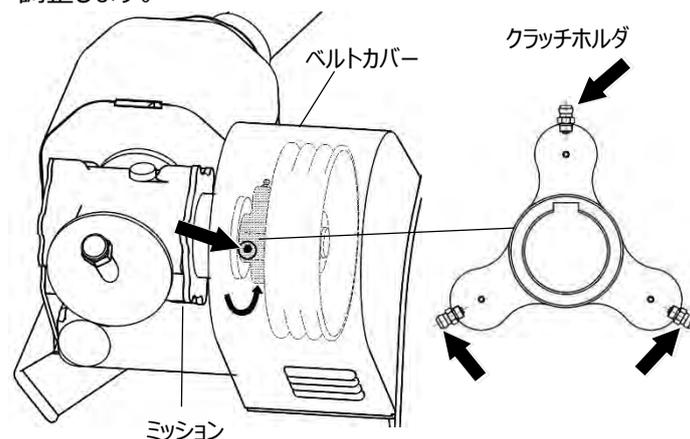
- ・プーリ側ユニットベアリング：1ヶ所（入れすぎないこと）
- ベルトカバーのゴム栓を外し、カバー内のニップルに注油



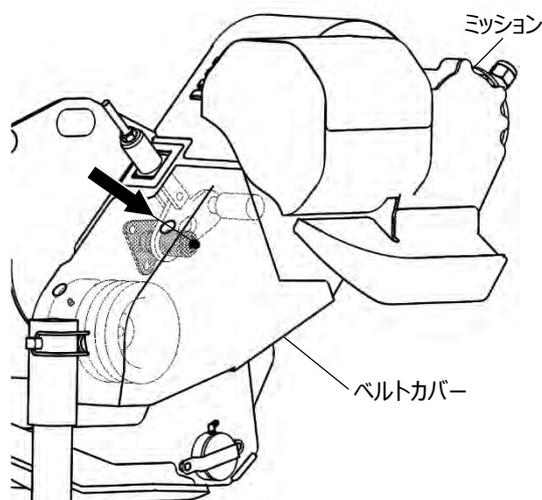
- ・エンド側ユニットベアリング：1ヶ所
- エンドカバーのゴム栓を外し、カバー内のニップルに注油



- ・クラッチホルダ：3ヶ所（入れすぎないこと）
- ベルトカバーのゴム栓を外し、カバー内のニップル3ヶ所に注油。ロータ軸を手で回してニップル位置を調整します。

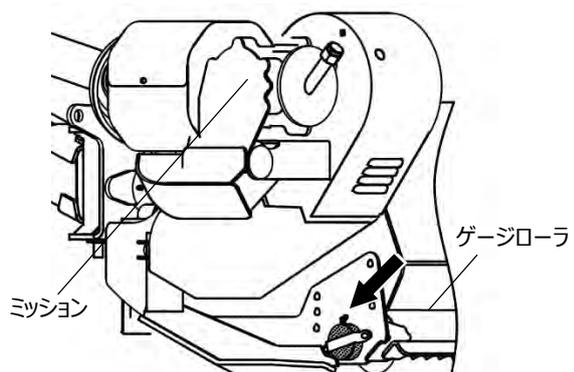


- ・テンションアーム：1ヶ所（入れすぎないこと）
- ベルトカバーのゴム栓を外し、カバー内のニップルに注油。

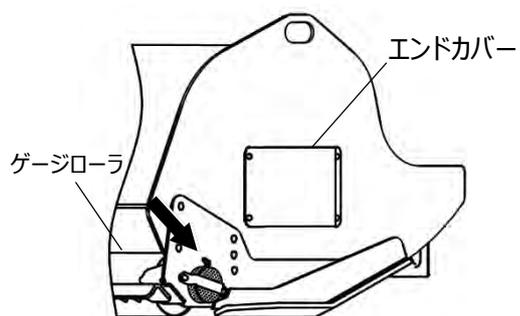


・ゲージローラ：2ヶ所

刈取部 左側



刈取部 右側



7. 廃油処理について

オイル交換で出た廃油は、河川や下水道、溝、空地などには、絶対に捨てないでください。環境汚染につながります。廃油の処分方法については、販売店にご相談ください。

トラブルの原因と処置方法

	現象	原因	処置	ユーザー	販売店
ジョイント	異音発生	ヨーク部のグリース不足	グリース給油	○	○
ミッションケース	オイル漏れ	オイルシールの損傷	オイルシール交換	×	○
		廃油口のシールの劣化	シール座金の交換	○	○
		締付けボルトの緩み	ボルトの増締め	○	○
	異常発熱	オイル量不足	オイル補給	○	○
		オイルシールの損傷によるオイル漏れ	オイルシール交換	×	○
Vプーリー	ロータの空回り	ワンウェイ部のピンが動かない	ホルダーにグリースアップし、スムーズに動くようにする	○	○
		Vベルトが切断、磨耗	Vベルト交換	○	○
		テンションがゆるい	テンションバネを締めこむ	○	○
		Vベルトの伸びすぎ	Vベルト交換	○	○
ロータ	異音がする	ベアリングユニットのグリース切れ	ベアリングユニットにグリースアップする	○	○
	刈取不良	ナイフの磨耗	ナイフの交換	○	○
		ナイフが回動しない	異物などを除去する	○	○
		ガンマナイフが逆向き	ガンマナイフの向きを正しく組み付ける	○	○
コントローラ	操作不能	配線抜け	再度コネクタを接続しなおす	○	○
		ヒューズ切れ	ヒューズの交換	○	○
		バッテリーの電圧不足	バッテリーの充電または交換	○	○
		コントローラ異常	コントローラの交換	○	○

主要諸元

ガンマナイフ仕様

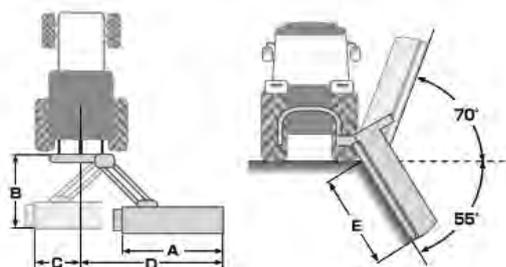
型式	装着の種類	必要外部油圧	作業幅 (mm)	適応トラクタ kW (PS)	作業速度 (km/h)	作業能率 (分/10a)	機体寸法 (mm)			爪軸回転数 (rpm)	重量 (kg) ※4	爪本数セット (本)
							全長	全幅	全高			
KZL 147GS	JIS 標準 3P 2 型	複動 1 系統	1400	36.8 ~51.5 (50~70)	2~4	14~29	2275	格納時 1915	作業時 1095 スタンド保管時 1220	PTO 1速 1320	415	24 (48)
KZL 147G		複動 2 系統										
KZL 167G												

Y 字ナイフ仕様

型式	装着の種類	必要外部油圧	作業幅 (mm)	適応トラクタ kW (PS)	作業速度 (km/h)	作業能率 (分/10a)	機体寸法 (mm)			爪軸回転数 (rpm)	重量 (kg) ※4	爪本数セット (本)
							全長	全幅	全高			
KZL 147YS	JIS 標準 3P 2 型	複動 1 系統	1400	36.8 ~51.5 (50~70)	2~4	14~29	2275	格納時 1915	作業時 1095 スタンド保管時 1220	PTO 1速 1320	415	24 (48)
KZL 147Y		複動 2 系統										
KZL 167Y												

※1) ササキ純正ヒッチです。 ※2) トラクタ単体重量 2300kg 必要です。

※3) トラクタにより、フロントウェイトが必要です。 ※4) スタンドなしの重量です。スタンド重量 4kg×3 本=12kg



型式	A	B	C	D	E
KZL147	1400	2275	230	2200	1090
KZL167	1600	2275	230	2400	1290

トラクタマッチングリスト

トラクタ

作業機

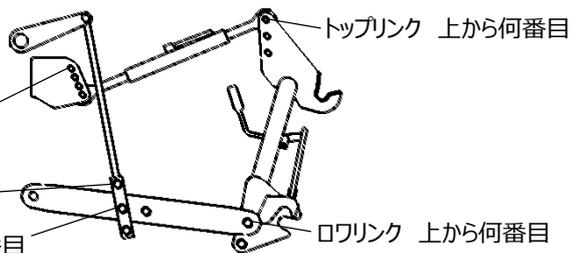
1. KZL147G / Y / GS / YS 各社トラクタとのマッチング

リスト内の穴位置の番号は
右図の通り、「上から」、または「前から」の
番号を示しています。

トップリンク 上から何番目

リフトロッド 上から何番目

ロワリンク 前から何番目



トラクタ型式	装着方式 (装着フレーム)	トラクタ側				作業機側		使用 ジョイント	最低 必要 重量 (kg)	備考
		トップリンク		リフト ロッド	ロワ リンク	トップ リンク	ロワ リンク			
		長さ (mm)	穴位置	穴位置	穴位置	穴位置	穴位置			
TJV655	標 4L	583	4	3	1	1	1	AS300-CV550	180	
TJV655C	標 4L	552	4	3	1	1	1	AS300-CV550	180	
TJV58 TJV63 TJV68	標 4L	566	3	3	1	1	1	AS300-CV550	135	
TJV58C TJV63C TJV68C	標 4L	535	4	3	1	1	1	AS300-CV550	225	
MR600H	標 4L	641	4	3	2	1	1	AS300-CV550	90	
MR650H		614	4	3	2	1	1	AS300-CV550	90	
MR700H		614	4	3	2	1	1	AS300-CV550	45	
MR650H-PC MR700H-PC	標 4L	553	4	4	2	1	1	AS300-CV550	180	
MR60	標 4L	642	4	3	2	1	1	AS300-CV550	180	
MR65	標 4L	613	4	3	2	1	1	AS300-CV550	180	
MR70	標 4L	570	4	3	2	1	1	AS300-CV550	180	
MR60-PC MR65-PC MR70-PC	標 4L	610	4	4	2	1	1	AS300-CV550	270	
GV601	標 4L	641	4	3	2	1	1	AS300-CV550	90	
GV651	標 4L	614	4	3	2	1	1	AS300-CV550	90	
GV701	標 4L	614	4	3	2	1	1	AS300-CV550	45	
GVK651 GVK701	標 4L	553	4	4	2	1	1	AS300-CV550	180	
YT460A YT465A YT472A	標 4L	609	2	2	1	1	1	AS300-CV550	90	
YT465AD YT472AD	標 4L	565	2	2	1	1	1	AS300-CV550	150	
EG65	標 4L	668	3	2	1	1	1	AS300-CV550	180	
EG65C	標 4L	635	3	2	1	1	1	AS300-CV550	300	

2. KZL167G / Y 各社トラクタとのマッチング

トラクタ型式	装着方式 (装着フルム)	トラクタ側				作業機側		使用 ジョイント	必要 重量 (kg)	備考
		トップリンク		リフト ポイント	リフト リンク	トップ リンク	リフト リンク			
		長さ (mm)	穴位置	穴位置	穴位置	穴位置	穴位置			
TJV655 TJV755	標 4L	583	4	3	1	1	1	AS300-CV550	180	
TJV885	標 4L	690	4	3	1	1	1	AS300-CV550	90	
TJV655C TJV755C	標 4L	552	4	3	1	1	1	AS300-CV550	225	
TJV885C	標 4L	672	4	3	1	1	1	AS300-CV550	180	
TJV63 TJV68 TJV75	標 4L	566	4	3	1	1	1	AS300-CV550	180	
TJV63C TJV68C TJV75C	標 4L	535	4	3	1	1	1	AS300-CV550	315	
TJV75L TJV85L	標 4L	588	4	3	1	1	1	AS300-CV550	180	
TJV85LC	標 4L	582	4	3	1	1	1	AS300-CV550	225	
TJX743	標 4L	625	4	3	1	1	1	AS300-CV550	180	
TJX873	標 4L	630	4	3	1	1	1	AS300-CV550	135	
MR600H	標 4L	641	4	4	2	1	1	AS300-CV550	180	
MR650H	標 4L	614	4	4	2	1	1	AS300-CV550	180	
MR700H	標 4L	614	4	4	2	1	1	AS300-CV550	135	
MR650H-PC MR700H-PC	標 4L	553	4	4	2	1	1	AS300-CV550	270	
MR800H MR900H	標 4L	630	4	5	1	1	1	AS300-CV550	90	
MR800H-PC MR900H-PC	標 4L	628	4	5	1	1	1	AS300-CV550	135	
MR60	標 4L	642	4	3	2	1	1	AS300-CV550	180	
MR65	標 4L	613	4	3	2	1	1	AS300-CV550	180	
MR70	標 4L	570	4	3	2	1	1	AS300-CV550	180	
MR60-PC MR65-PC MR70-PC	標 4L	610	4	4	2	1	1	AS300-CV550	315	
MR77 MR87	標 4L	639	4	3	2	1	1	AS300-CV550	135	
MR77-PC MR87-PC	標 4L	627	4	3	1	1	1	AS300-CV550	315	
M860W-SE	標 4L	720	3	4	2	1	1	AS300-CV550	135	
GV601	標 4L	641	4	4	2	1	1	AS300-CV550	180	
GV651	標 4L	614	4	4	2	1	1	AS300-CV550	180	

2. KZL167G / Y 各社トラクタとのマッチング (2)

トラクタ型式	装着方式 (装着形式)	トラクタ側				作業機側		使用 ジョイント	必要 重量 (kg)	備考
		トップリンク		リフト ピン	ワ リンク	トップ リンク	ワ リンク			
		長さ (mm)	穴位置	穴位置	穴位置	穴位置	穴位置			
GV701	標 4L	614	4	4	2	1	1	AS300-CV550	135	
GVK651 GVK701	標 4L	553	4	4	2	1	1	AS300-CV550	270	
GV77 GV87	標 4L	639	4	3	2	1	1	AS300-CV550	135	
GVK77 GVK87	標 4L	627	4	3	1	1	1	AS300-CV550	315	
YT465A YT472A	標 4L	609	2	2	1	1	1	AS300-CV550	180	
YT465AD YT472AD	標 4L	565	2	2	1	1	1	AS300-CV550	210	
EG65	標 4L	668	3	2	1	1	1	AS300-CV550	260	
EG76	標 4L	648	3	2	1	1	1	AS300-CV550	150	
EG83	標 4L	648	3	2	1	1	1	AS300-CV550	90	



株式会社

ホームページ <http://www.sasaki-corp.co.jp>

ササキコーポレーション

本社・工場 / 〒034-8618	青森県十和田市大字三本木字里ノ沢1-259	TEL 0176-22-3111	FAX 0176-22-8607
製品窓口 / 〒034-8618	青森県十和田市大字三本木字里ノ沢1-259	TEL 0176-22-0170	FAX 0176-25-3127
部品窓口 / 〒034-8618	青森県十和田市大字三本木字里ノ沢1-259	TEL 0176-25-3170	FAX 0176-25-3171
北東北営業所 / 〒034-0001	青森県十和田市大字三本木字里ノ沢1-75	TEL 0176-23-0354	FAX 0176-23-9655
仙台営業所 / 〒989-1631	宮城県柴田郡柴田町東船迫2-4-11	TEL 0224-58-7780	FAX 0224-58-7782
関東営業所 / 〒329-0201	栃木県小山市栗宮1241-9	TEL 0285-45-8911	FAX 0285-45-8910
新潟営業所 / 〒954-0051	新潟県見附市本所1丁目14番17号	TEL 0258-61-1810	FAX 0258-62-3160
岡山営業所 / 〒702-8002	岡山県岡山市中区桑野110-2	TEL 086-274-9508	FAX 086-274-9510